

與スヘシ

一救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以石代下ケ渡スヘキ事

〔一〕三子出産困窮ニシテ學養行届兼候向養育料給與方 明治六年三月三日 大政官達第七拾九號(開拓使)府縣
三子出産ノ者其家困窮ニテ學養行届兼候向ハ以來養育料トシテ一時金五圓給與致シ候間 地方官ニ於テ速ニ施行致シ追テ請取方大藏省へ可申出候事

〔二〕恤救米及棄兒養育米等石代金下渡方 明治八年四月二十九日 (内務卿運署) 大藏省達第七拾六十三號府縣

昨七年十二月中第百六十二號公布恤救米及棄兒養育米等部テ石代金下渡方ノ儀各廳ニ於テ本人共へハ三ヶ月分ヲ取束于其初月ニ后子ノ兩月ヲ括シ渡方可取計且疾病等ニテ日當給米ノ分ハ凡一ヶ月分ヲ其月初メニ繰上ケ相渡候儀ハ不苦候條概費ヲ以支給シ尤本年七月ヨリハ額外常費ヲ以可任排此旨相達候事

但本文三ヶ月分取束相渡候節ハ總テ渡前月ノ下米相場ヲ以石代給與可致候且本人病死等ノ節ハ渡過相成候分返納ニ不及候事

〔三〕救助筋申請ノ砌調査稟議簡條 明治八年七月三日 内務省達第七拾五號府縣

窮民恤救ノ儀ニ付テハ昨七年第百六十二號ヲ以御達ノ趣モ有之候處爾後右等ノ者共救助筋申請ノ砌ハ左ノ箇條ニ照シ第卜調査ノ上可伺出此旨心得トシテ相達候事

第一條 恤救規則ニヨル可キモノハ獨身老幼廢疾疾病等ニテ何等ノ業モ爲ス能ハズ事實亦貧ニシテ曾テ他ニ保育スル者モ無之全ク無告ノ窮民而已ニ限ルヘシ然ルニ唯年餘廢疾等ノ名義ニヨリ救助伺出ツル等ノ儀コレアリテハ恤救規則ノ趣旨ニモ乖戻可致ニ付假令七十年以上又ハ廢疾ノ者タリモ其業ニヨリテハ生産ノ道可相立者ナントセサレハ他ト現場ノ實況ヲ査定シ眞ニ不得已者而已具狀イタスヘシ

第二條 同上ニヨリ是迄其市村内或ハ隣保ノ情願ニヨリ互ニ協救仕來ル如キハ別段官ノ給與ヲ乞ハサルヲ以本旨トス

ヘシ

第三條 同上ニヨリ互ニ協救スルト雖若シ其手當不足ニシテ其内幾分ヲ官ヨリ仰カサレハ補助スル能ハサル等ノ如キハ其幾分救助ノ次第及ヒ石敷金員ニ至ル迄詳悉記載申出ヘシ

第四條 同上ニヨリ三十三年以上七十年以下ノ者疾病中救助米賜ルト雖全快ノ期ヲ篤卜調査シ挂再支給等無之標注意イタスヘシ

第五條 同上ニヨリ疾病或ハ病者トノミ記載申請ノ向モ有之候得共爾後左ノ醜形ニ準シ詳悉記載別紙ニ製シ具申イタスヘシ

但規則屬書ニコレアル餘ノ家人アラハ本文醜形ニ記載スル本人名前ノ左傍ニ委詳書記スヘシ

第六條 同上ニヨリ五十日以内給與シ申請ノ節 何月幾日ヨリ 何日分ト記載伺出ヘシ

第七條 同上ニヨリ伺濟ノ上其右割ヲ以給與セシムルハ勿論ナレト雖ハ一ヶ年一石八斗ヲ目途ニ立テ其以内ヲ以足レリトスルカ如キハ其數實地至當ニ斟酌シ適宜ノ處分ハ不苦候間其旨精細具狀イタスヘシ

第八條 老幼廢疾疾病等ニテ獨身ニ非スト雖餘ノ家人七十一年以上十五年以下タレハ本人ノミハ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處右シ餘ノ家人廢疾疾病老幼ニテ事實難捨置情故アラハ其者共へモ救助セシムルヲモアルヘキニ付其旨趣ヲ以テ具狀スヘシ併シ右様ノ場合ニツイテ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與ヲ致サストモ其適度ニ斟酌シ可成丈減省ヲ見込ミ伺出可シ

(名簿醜形等之)

〔四〕恤救米及棄兒養育米等渡前月相場調成難成向ハ前々月平均相場ヲ用フ 明治九年三月二十四日

大藏省達第七拾三十二號府縣 (内務卿運署)

昨八年四月中大藏省乙第六十三號ヲ以恤救米及ヒ棄兒養育米等渡前月ノ平均相場ヲ以石代給與ノ旨相達置候處地方ノ都合ニ寄實際交付ノ節迄二前月相場調成難相成事實差開候向ハ渡前々月ノ下米平均相場相用不苦候條豫テ大藏省へ届

アリテ出席セサルトキ或ハ會議中自己ノ意見ヲ説明センカ爲メ議官ノ列ニ入ラント欲スルトキハ副議長ヲシテ議長ノ席ニ就カシム可シ

第五條 議長ノ缺員ノトキハ副議長總テ議長ノ任ニ代ル可シ若シ副議長會議中自己ノ意見ヲ説明センカ爲メ議官ノ列ニ入ラント欲スルトキハ其間(幹事及)議官中ヨリ假ニ自己ノ代理人ヲ撰ムコトヲ得可シ

第六條 議長ハ衆員ノ議論相半スル時ニ限り其可否ヲ決スルヲ得可シ

第七條 (幹事ハ議席ニ臨ムトキハ議官ノ列ニ就ク然レトモ定務ノ便宜ニ從ヒ議席ニ臨マサルコトヲ得)

第八條 (幹事ハ常ニ定務ニ服スルヲ以テ特ニ委員ノ選任ヲ受ケス但何時ニテモ自ら委員局ニ至リ其意見ヲ陳スルコトヲ得ヘシ)

第九條 (幹事ハ本院庶務會計ノ事ニ就テ其成規アル者ハ之ヲ決行スルコトヲ得ヘシ)

第十條 (本院庶務會計ノ事ニ就テハ幹事ノ名ヲ以テ諸省長官ト往復スルコトヲ得)

第十一條 (幹事ハ會計年度毎ニ明年經費ノ豫算表ヲ製ス可シ)

議事條例

第一條 議案ノ下附ヲ受タルトキハ議長ヨリ命シテ印刷セシメ各議官ニ各一本ヲ附ス可シ

第二條 議案ヲ頒布スルト同時ニ又ハ頒布スルノ後ニ該件會議ノ日ヲ各議官ニ報知ス可シ

而テ會議ノ日ハ必ス議案ヲ頒布シタル日ヨリ二日ノ後翌日ヨリニ在ル可シ

第三條 議長ハ會議ノ時限ニ先ツ其席ニ就キ令ヲ下シ議官ヲ列坐セシメ然ル後議事ヲ始ム可シ

第四條 議官出席人總員三分ノ一ニ充タサルトキハ其日ノ議事ヲ開クヲ得ス

第五條 議長ハ討論中議官ヲ制シ紀律序次ヲ破ラサラシム

第六條 議長ハ會議中如何様ノ場合ニ於ケルモ號鈴ヲ鳴ラシ議官ノ發言ヲ止ムルヲ得ヘシ

第七條 元老院ノ會議ハ人身上ニ就イテ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第八條 議官發言中ハ他ノ議官ハ整肅シテ其發言ヲ滿場ニ洞達セシムルヲ要ス可シ私語或ハ吹煙シテ發言ヲ妨害スルコトヲ禁ス

第九條 議長書記官ニ命シテ議案ヲ朗讀セシメタル後發言セント欲スル者ハ必ス起立シテ

議長ト呼ヒ發言セント欲スルコトヲ知ラシム議長ハ其議官ノ番號ヲ呼ヒ衆議官ヲシテ發言スルコトノ誰某ナルコトヲ知ラシム可シ若シ同時ニ發言セント欲スルモノ數員アルトキハ其席ノ順序ヲ以テ先後ヲ定ム可シ

第十條 議席ニ於テハ議長ノ名ヲ呼ハスシテ議長ト呼フ可シ

議長議官ヲ呼ヒ又議官互ニ呼フトキハ番號ヲ呼フ可シ

第十一條 會議ニ當リ議案ノ説明ヲ要シ内閣委員ニ向テ議官ヨリ問ヲ發スルトキハ先ツ議

長ニ向ヒ許可ヲ請フ可シ而シテ委員ハ議長ノ席ニ向テ辨明ス可シ

第十二條 一 議官發言中他ノ議官其說本案ヲ誤解シ若クハ本案ト交渉ナクシテ無用ニ屬スト思フトキハ發言未タ終ラサル前ト言トモ議長ニ向ヒ無用ト呼フコトヲ得可シ議長ハ直ニ甲議官ノ發言ヲ中止セシメ乙議官ヲシテ其無用トスル理由ヲ説明セシメ又甲議官ヲシテ答辨ノ自由ヲ得セシメ然シテ後議長ノ裁決ニ任セ遂ニ甲議官ノ發言ヲ廢止スルコトヲ得

第十三條 議案ヲ討論シタル後議長衆議官ヲシテ起立法ヲ以テ可否ヲ決セシム可シ議案中數條目アルトキ其條目ニ就テ異議アルモノハ修正ノ意見ヲ發シ議長其可否ヲ決セシムルコト上ノ如シ

第十四條 一案ヲ議スルニ其本家中或ハ支節ヲ生スルトキハ姑ク本案ヲ置キ先ツ支案ヲ議スル歟又ハ先ツ本案ヲ了シテ次ニ支案ニ及フコト議長ノ所見ニ從フ

第十五條 會議ノ可否ハ多數(一人ニテモ多數ナル方)ニ決ス可シ

第十六條 議官ハ議案ヲ議スルニ方テ充分討論スルノ權ヲ有スルノミナラス又如何様ノ場合ニ於テモ可否ノ員ニ加ラサルコトヲ得ス

第十七條 議官ノ議席ニ在ル際ハ縱令如何様ノ異論ヲ生シ自己ノ說伸ヒサル場合ニ至ルモ之カ爲メニ其席ヲ保タサルヲ得ス但議決セシ後自己ノ意見ヲ存セント欲スル者ハ之ヲ元老院存議録ニ筆記スルヲ得可シ

第十八條 會議中議官事故アリテ議場ニ臨マズ決議ノ後來會スルモノ有リト雖トモ更ニ議スルヲ許サス

第十九條 一 議案ニ付キ一度發言セシモノハ該案數日決セスト雖モ其說ヲ變シテ再ヒ發言スルコトヲ許サヘル可シ其議案ヲ修正シ或ハ改議スルトキハ此限ニアラス

第二十條 一 議案ニ付キ前說ヲ變シ再度ノ發言ヲ禁スト雖モ若シ緊要已ムコトヲ得サルニ出テ再ヒ發言セント欲スルモノハ其變說ノ要旨ヲ議長ニ告ケ議長此レヲ衆員ニ問ヒ衆員許可ノ上再ヒ發言スルコトヲ得可シ此ノ時ハ前說ヲ廢棄セルコト當然タリ

第二十一條 已ニ發言セシ者ト雖トモ變說ニアラサル者ハ猶其論旨ノ貫徹ヲ要スル爲メニ重テ發言スルコトヲ許ス然レトモ他員ノ發言中ニ混説ス可ラス

第二十二條 會議中許可ナクシテ院外ノ人猥リニ立入コトヲ許サス

第二十三條 會議可ト決スルトキハ議長ヨリ太政大臣ヲ經テ上奏ス可シ若シ否ト決スルトキハ理由ヲ具ヘテ上奏ス可シ

議案修正條例

- 第一 各議員ハ修正ノ意見ヲ發スルコトヲ得
- 第二 修正トハ議案ノ意義文章節目字句ヲ改竄增加分合轉置刪除スルヲ云
- 第三 修正ノ意見ヲ發スル者アリテ衆議可ト決スルトキハ議長ヨリ委任ヲ命シテ修正案ヲ作ラシム可シ

第四 修正委員ノ外他ノ議官ヨリ修正案ヲ進ムル者アル時ハ議長ヨリ委員ニ付シテ比照裁取シテ一案トナサシム可シ

第五 修正案成ルトキハ之ヲ議長ニ進メ議長命シテ之ヲ印刷シ各議官ニ分付シ併セテ第二次會ヲ開クノ日ヲ報知シ又其一部ヲ内閣ニ送リ内閣委員ノ檢照ニ供ス内閣委員修正案ニ協同セサル時ハ意見書ヲ作り内閣ヲ經テ議長ニ答覆スルコトヲ得其意見書ヲ作ルニ要ナル時間ヲ得ル爲メニハ本案會議ノ期ヲ緩クスルコトヲ求ムルコトヲ得或ハ又意見書ヲ作ラスシテ會議ニ臨ミ原案ヲ主持スルコトヲ得

第六 第二次會ニ於テ書記官ハ先ツ逐條原案ヲ讀ミ次ニ修正案ヲ讀ミ次ニ内閣委員ノ意見書ヲ讀ミ修正委員考案ヲ陳シ内閣委員原案ヲ主持シ而シテ後衆議官逐條修正ノ可否ヲ決ス

第七 修正ノ議已ニ決スルトキハ修正ノ本ヲ清寫セシメ議長ヨリ太政大臣ヲ經テ上奏ス可シ

議案檢視條例

第一條 議案ノ檢視ニ係ルモノハ元老院ニ於テ可否スルコトヲ要セス又修正ノ權ナシ故ニ委員ヲ用ヒス直ニ衆議員ヲ會シ全案ヲ朗讀ス可シ而シテ逐條分議スルコトヲ用ヒス

第二條 議官中議案ノ舊法ヲ害シ若クハ抵觸シ及ヒ一案中互ニ相抵觸シ及ヒ不備不明ナリトシテ發言シタルトキハ議長之ヲ衆議ニ付シ發言ノ當否ヲ決シ衆議當ト決スルトキハ其

理由ヲ具ヘ太政大臣ニ通牒シテ改正ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第三條 議案既ニ檢視ヲ經タルトキハ議長ヨリ太政大臣ヲ經テ上奏ス可シ

第四條 兼施ヲ要シ元老院ノ檢視ヲ經スシテ發行シタル布告ハ布告ノ同時ニ其一本ヲ内閣ヨリ本院ニ送致ス本院檢視ノ手續ハ前ニ同シ

帝國議會沿革要領

明治元年二月諸藩貢士ノ制ヲ頒布ス○同年三月五箇條ノ御掛文ヲ頒ツ○同年五月諸藩公務人ノ職ヲ設ケ貢士ヲシテ之ヲ勸メシム○同年七月藩治職制ヲ定メ公務人ハ執政參政中ヨリ選出セシム○同年八月諸藩公務人ヲ公議人ト改稱ス○同年十一月議事取調局ヲ東京ニ置キ諸藩公議人ヲ管轄セシム○同年十二月諸藩公議人ノ員數ヲ定ム○二年三月公議所ヲ開ク○同年四月議事取調局ヲ廢ス○同年七月公議所ヲ廢シ衆議院ヲ置ク○同年八月衆議院規則ヲ定ム○三年九月藩政ヲ改革シ公議人公用人ノ稱呼ヲ廢シ尋テ議員一同ヲ歸藩セシム○同年諸藩ニ令シテ正權大參事ノ内一人在京セシメ衆議院開院ノトキハ議員ニ充ツ○四年七月藩ヲ廢シ縣ヲ置ク○六年六月第二八號ヲ以テ衆議院ヲ廢シ其事務ヲ左院ニ付スル旨ヲ布告ス○七年四月立憲政體ヲ立ツルノ詔勅ヲ頒布ス○同年五月第五十號達ヲ以テ地方官會議ヲ開キ議院憲法並規則ヲ定ム○同年九月第百十八號達ヲ以テ議院規則小目ヲ定ム○八年五月第七十一號達ヲ以テ地方官會議御下間ノ條件ヲ定ム○同年第八十一號ヲ以テ前令中一條ヲ追加スル旨ヲ達ス○同年六月第百三號達ヲ以テ七年第五十八號達同第百十八號達中ヲ刪除修正ス○十一年三月第九號達ヲ以テ議院憲法并議事規則ヲ改定ス○十三年一月第三號達ヲ以テ十一年第九號達中議事規則ヲ改定ス○十四年十月勅シテ國會開設ノ期限ヲ定メ人民ニ諭告ス○二十二年二月法律第二號ヲ以テ議院法ヲ頒布シ第三號ヲ以テ衆議院議員選舉法ヲ定ム○同月勅令第十一號ヲ以テ貴族院令ヲ頒ツ

第五十三 國會開設ノ勅諭

明治十四年十月十二日

勅諭

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紉ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬シ又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サンコトヲ期ス嚮ニ明治八年ニ元老院ヲ設ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆漸次基ヲ創メ序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセン

願ミルニ立國ノ體國各宜シキヲ殊ニス非常ノ事業實ニ輕舉ニ便ナラス我祖我宗照臨シテ上ニ在リ遺烈ヲ揚ケ洪模ヲ弘メ古今ヲ變通シ斷シテ之ヲ行フ實朕カ躬ニ在リ將ニ明治廿三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ以テ朕カ初志ヲ成サントス今在廷臣僚ニ命シ假スニ時日ヲ以テシ經畫ノ責ニ當ラシム其組織權限ニ至テハ朕親ヲ衷ヲ裁シ時ニ及テ公布スル所アラントス

朕惟フニ人心進ムニ偏シテ時會速ナルヲ競フ浮言相動カシ竟ニ大計ヲ遺ル是レ宜シク今ニ及テ謨訓ヲ明徴シ以テ朝野臣民ニ公示スヘシ若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ爭ヒ事變ヲ煽シ國安ヲ害スル者アラハ處スルニ國典ヲ以テスヘシ特ニ茲ニ言明シ爾有衆ニ諭ス

奉勅

明治十四年十月十二日

太政大臣三條實美

〔一〕議院法 明治二十二年二月十一日公布 法律第二號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 長伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 臣子爵森有禮
- 遞信大臣 臣子爵榎本武揚

法律第二號 議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第三類 第一章 議會

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ
第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部长一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會開會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預

カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス
書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議

案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五節 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス

但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十

四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得 議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セズ但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 祕密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受タルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用非スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 祕密會議ハ刑行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ毎會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ

違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用井政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用井ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ

於テ定ル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヅルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス
各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ罷責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請假ノ期限ヲ

過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

〔二〕衆議院議員選舉法 明治二十二年二月十一日公布 法律第三號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 伯爵榎本武揚

法律第三號

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命ジ選舉長タラシムヘシ

第四條 一 市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長タラシムヘシ

第五條 選舉ニ關スル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス
前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議員ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白痴ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ

行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町

村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル
町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選
舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣
知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管
理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見
シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縱覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムル
コトヲ得

縱覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ申立ヲ
受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタル
トキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ
併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審查シ必要ナ
ル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之

ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ
町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セサルトキハ選舉長ヲ被告トシ
判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス
速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告
スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ據置
クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル
時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若
ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スヘシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ
勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ
管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町
村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ
町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五
名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所
ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一
ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票
函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票ス
ヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ

之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シ
テ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏員
ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載ス
ヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ
記載セラレヘキ裁判言渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投
票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘ
シ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署
名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併
セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一選舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサ

ル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 選舉會ハ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス
一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者

ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用非タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ開キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ
第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス
投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ
第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ

當選承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補關選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得
第六十七條 議員ノ關員アルニ由リ内務大臣ヨリ補關選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ關員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補關議員ヲ選舉セシムヘシ

第六十八條 補關議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル
第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏

ノ處分ニ付スルコトヲ得
第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス
第七十三條 投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十四條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十五條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十六條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ二十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

第十二章 當選訴訟

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ
第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得
第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第十三章 罰則

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル
第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各、本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各、本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス
其情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各、本刑ニ一等ヲ加フ

第三類 第一章 議會

第九十七條 演説又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第一百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第一百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第一百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第一百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第一百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戸長之ヲ掌ルヘシ

第一百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得税法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第一百一十條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セス

衆議院議員選舉法附錄

東京府 議員總數十二人

區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
淺草區	本所區 深川區	日本橋區	京橋區	芝區	麩町區 赤坂區 麻布區
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

區二十第	區一十第	區十第	區九第	區八第	區七第
伊豆七島郡 荏原郡	南足立郡 南葛飾郡	北豐島郡 南豐島郡 東多摩郡	小石川區 牛込區 四谷區	本郷區 下谷區	神田區
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
熊野郡 竹野郡 中野郡 與野郡 加賀郡	何野郡 天井郡 船井郡 北桑田郡 南桑田郡	綴相郡 相樂郡 久世郡 宇治郡	紀伊郡 七野郡 葛野郡 愛宕郡	下京區	上京區
一	二	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

大阪府 議員總數十八人

區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
高安郡 若江郡 河內郡 澁野郡 交野郡 茨田郡	能勢郡 豐島郡 島下郡 島上郡	住吉郡 東成郡 西成郡	南區	北區 東區	西區
一	一	二	一	一	一
人	人	人	人	人	人

區二第	區一第	神奈川縣	區九第	區八第	區七第
都筑郡 橘樹郡 久良岐郡	橫濱區	日根郡	南泉郡 大島郡	大磯區 丹波郡 志保郡 丹波郡 錦部郡 安宿郡 古市郡 八上郡 石川郡	
一	一	議員總數七人	一	一	一
人	人	人	人	人	人

區二第	區一第	兵庫縣	區六第	區五第	區四第	區三第
有馬郡 川邊郡 菟原郡 武庫郡	神戸區	足柄下郡 足柄上郡 湖上郡 大住郡	津久井郡 愛甲郡 高座郡	鎌倉郡 三浦郡	北多摩郡 西多摩郡 南多摩郡	
一	一	議員總數十二人	一	一	一	二
人	人	人	人	人	人	人

第三類 第一章 議會

埼玉縣 議員總數八人	區九第	區八第	區七第	區六第	區五第	區四第
	羽加維 茂茂大 郡郡郡	西中 頸頸 城城 郡郡	東中南北 頸魚魚魚 城沼沼沼 郡郡郡	刈 羽 郡	三古 島志 郡郡	南蒲 原郡
	一	二	二	一	二	一
	人	人	人	人	人	人

群馬縣 議員總數五人	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
	秩那賀兒 父珂美玉 郡郡郡郡	男榛幡大 衾澤羅里 郡郡郡郡	中北南 葛葛崎 飾飾玉 郡郡郡	比橫高入 企見趾間 郡郡郡郡	新 北足立 座郡
	一	二	二	二	一
	人	人	人	人	人

千葉縣 議員總數九人	區一第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
	市千 原葉 郡郡	碓北 水甘 郡樂 郡郡	吾片西 妻岡群 郡馬 郡郡	多綠那 胡野波 郡郡郡	邑山新 樂田田 郡郡郡	北利南 勢根勢 多郡多 郡郡郡
	一	一	一	一	一	一
	人	人	人	人	人	人

長崎縣 議員總數七人	區八第	區七第	區六第	區五第	區四第	區三第
	宍佐赤掛掛 粟用穂西東 郡郡郡郡	神神飾飾 西東西東 郡郡郡郡	加多加 西可東 郡郡郡	印加 南古 郡郡	美明八 美石部 郡郡郡	氷多 上紀 郡郡
	二	一	一	一	一	一
	人	人	人	人	人	人

新潟縣 議員總數十三人	區三第	區二第	區一第	區十第	區九第
	南高 來郡	北東 高彼 來杵 郡郡	西長 彼崎 杵區 郡	三津 原名 郡郡	朝發二七出 來父方美石多 郡郡郡郡郡
	一	一	二	一	二
	人	人	人	人	人

新潟縣 議員總數十三人	區三第	區二第	區一第	區六第	區五第	區四第
	中蒲 原郡	段東北 船新蒲 郡原 郡郡	西新 蒲潟 原區 郡	下上 縣縣 郡郡	南 松浦 郡	石登北 田岐浦 郡郡郡
	一	二	一	一	一	一
	人	人	人	人	人	人

區三第	區二第	區一第	三重縣	區三第	區二第
朝貝奈	河奄鈴三	一安	吉宇	忍葛葛高	十字式
明辨名	曲藝鹿重	志澁	野智	海下上市	市陀下上
郡郡郡	郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡郡	郡郡郡
一	一	一	一	二	
人	人	人	人	人	

區三第	區二第	區一第	愛知縣	區六第	區五第	區四第
西東	愛	名	伊名山阿	南北	茨答	多飯
春春	知	古屋	賀張田拜	牟牟	志會	氣野高
日井	郡	區	郡郡郡	婁婁	郡郡	郡郡
郡	郡	區	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	二	一	
人	人	人	人	人	人	

區十第	區九第	區八第	區七第	區六第	區五第	區四第
寶南	東西	額	知	海海	中	藥丹
飯設	加加	幡	多	西東	島	栗羽
郡樂	茂茂	豆	郡	郡郡	郡	郡郡
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人

區八第	區七第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第
長朝平	天周望	長上	武山	匪海	香	南下印
狹夾	房羽准	柄植	射	上	取	相墟
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡	馬生
一	一	一	一	一	一	二
人	人	人	人	人	人	人

區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	茨城縣
北河	新	茨	眞	那	行	東茨
相內	治	葛	壁	珂	方	城
馬郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	二	二	八
人	人	人	人	人	人	人

區一第	區四第	區三第	區二第	區一第	栃木縣
平廣	那	梁	寒	芳	河
瀨山	須	足	下	賀	內
郡郡	郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	二	一	五
人	人	人	人	人	人

長野縣 議員總數八人	區七第	區六第	區五第	區四第	區三第
	吉城郡	益田郡 大野郡 惠那郡	土岐郡 可兒郡 加茂郡	武儀郡 郡	山縣郡 市川郡 本巢郡 池田郡 大野郡 中野郡 上野郡 多石郡 下石郡 海西郡
	—	—	—	—	—
	人	人	人	人	人

滋賀縣 議員總數五人	區七第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
	下伊那郡	諏訪郡	上伊那郡	北佐久郡 南佐久郡	北安曇郡 南安曇郡	東筑摩郡 西筑摩郡	小縣郡 下高井郡 上高井郡
	—	—	—	—	—	—	—
	人	人	人	人	人	人	人

宮城縣 議員總數五人	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
	本吉郡 牡鹿郡 桃生郡	登米郡 栗原郡	遠田郡 玉造郡 志田郡 加美郡 黒川郡	亘理郡 伊具郡 刈田郡 柴田郡	宮城郡 名取郡 仙臺區
	—	—	—	—	—
	人	人	人	人	人

靜岡縣 議員總數八人	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	區一十第
	磐山郡 豐田郡 周智郡	城東郡 佐野郡	益津郡 志太郡	庵原郡 富士郡	有渡郡 安倍郡	八名郡 渥美郡
	—	—	—	—	—	—
	人	人	人	人	人	人

山梨縣 議員總數三人	區三第	區二第	區一第	區七第	區六第
	南巨摩郡 西八代郡 東八代郡	北都留郡 南都留郡 東山梨郡	中巨摩郡 北巨摩郡 西山梨郡	駿田郡 君澤郡 賀茂郡	鹿沼郡 引佐郡 淵名郡 長知郡
	—	—	—	—	—
	人	人	人	人	人

岐阜縣 議員總數七人	區二第	區一第	區四第	區三第	區二第	區一第
	安不破郡	不破郡 各務郡 厚見郡	阪田郡 伊香郡 東淺井郡 西淺井郡	蒲生郡 神崎郡 愛知郡 犬上郡	栗原郡 甲賀郡 大洲郡	高島郡 滋賀郡
	—	—	—	—	—	—
	人	人	人	人	人	人

區一第	福井縣	區四第	區三第	區二第	區一第	秋田縣	區四第
大野郡	議員總數四人	雄勝郡	仙北郡	利達郡	鹿角郡	北秋田郡	最上郡
一		二	一	一	一	一	一
人		人	人	人	人	人	人

區三第	區二第	區一第	石川縣	區四第	區三第	區二第
鹿羽郡	江沼郡	能美郡	議員總數六人	敦賀郡	大野郡	遠敷郡
二	一	二		一	一	一
人	人	人		人	人	人

區一第	鳥取縣	區四第	區三第	區二第	區一第	富山縣	區四第
八尾郡	議員總數三人	美作郡	美作郡	新川郡	上野郡	新川郡	鳳至郡
一		一	一	一	二	一	一
人		人	人	人	人	人	人

區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
宇野郡	河沼郡	大沼郡	北會津郡	南會津郡
一	二	二	一	一
人	人	人	人	人

區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	巖手縣
東磐井郡	西磐井郡	氣仙郡	膽澤郡	江刺郡	議員總數五人
一	一	一	一	一	
人	人	人	人	人	

區三第	區二第	區一第	山形縣	區三第	區二第	區一第
東田川郡	西田川郡	鮎川郡	議員總數六人	西津輕郡	中津輕郡	南津輕郡
二	一	二		一	一	二
人	人	人		人	人	人

區一第 安藝區	區二第 佐伯郡	區三第 沼田郡 高宮郡 山縣郡	區四第 高田郡 三田郡 三田郡	區五第 加茂郡	區六第 豐田郡	區七第 御調郡 世羅郡
二	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人

區八第 深津郡 沼限郡 安那郡	區九第 品田郡 神石郡 甲奴郡 三上郡 三上郡 三上郡	山口縣 議員總數七人	區一第 吉敷郡 美濃郡 厚狹郡 佐波郡	區二第 阿武郡 見島郡 大津郡	區三第 赤間區 豐浦郡
一	一	二	一	一	一
人	人	人	人	人	人

區四第 熊毛郡 大島郡	區五第 玖珂郡	和歌山縣 議員總數五人	區一第 和歌山區 名草郡 海部郡 有田郡	區二第 伊都郡 那賀郡	區三第 日高郡 西牟婁郡 東牟婁郡	德島縣 議員總數五人	區一第 勝浦郡 名東郡
二	一	二	一	一	二	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人

區一第 智頭郡	區二第 高草郡 河村郡 久米郡 八橋郡	區三第 高氣郡 河村郡 久米郡 八橋郡	區一第 島根縣 鹿根郡 秋鹿郡 意宇郡 能義郡 仁多郡 大原郡 飯石郡	區二第 出雲郡 雲梯郡 出雲郡	區三第 出雲郡 雲梯郡 出雲郡
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人

區四第 安那郡 智濃郡 安那郡	區五第 那賀郡 美濃郡 鹿足郡	區六第 周吉郡 周吉郡 周吉郡	區一第 岡山縣 御野郡 上道郡 邑久郡 兒島郡	區二第 津高郡 赤阪郡 赤阪郡 和氣郡	區三第 津高郡 赤阪郡 赤阪郡 和氣郡
一	一	二	二	一	一
人	人	人	人	人	人

區一第 賀陽郡	區二第 下道郡	區三第 淺田郡 小田郡 後月郡	區四第 上房郡 川上郡 多上郡	區五第 阿賀郡 賀賀郡	區六第 大庭郡 西條郡 西條郡 西北條郡 東北條郡	區七第 勝北郡 勝南郡 吉野郡 英田郡 久米北條郡 久米南條郡	廣島縣 議員總數十八人
一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人

區五第	區四第	區三第	區二第	區一第
下上三	竹生山御	經嘉鞍遠	夜下上席御那宗精	早志怡福
妻妻諸	野菜本原井	波麻手賀	須座座田笠珂像屋	長摩土岡
郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡
—	—	—	二	—
人	人	人	人	人

區三第	區二第	區一第	大分縣	區八第	區七第	區六第
直大	南北海	大分	議員總數六人	上築仲京	田企	三山
入野	海部部	郡		毛城津都	川救	油門
郡郡	郡郡	郡		郡郡郡	郡郡	郡郡
—	—	—		—	—	—
人	人	人		人	人	人

區三第	區二第	區一第	佐賀縣	區六第	區五第	區四第
藤柁	西東	三發基小神佐	議員總數四人	宇下	東西	日玖
津島	松松	根父津城崎賀		郡毛	國國	田珠見
郡郡	浦浦	郡郡郡		郡郡	東東	郡郡郡
—	—	二		—	—	—
人	人	人		人	人	人

區三第	區二第	區一第	香川縣	區五第	區四第	區三第	區二第
阿鷓	三寒大	小山香	議員總數五人	三美	板	麻阿名	海那
野足	木川內	豆田川		好馬	野	植波西	部賀
郡郡	郡郡	郡郡		郡郡	郡	郡郡	郡郡
—	—	—		—	—	—	—
人	人	人		人	人	人	人

區三第	區二第	區一第	愛媛縣	區五第	區四第
上喜	周桑越	伊久野	議員總數七人	三豐	那多
浮多	布村智	下伊久		野田	珂度
穴郡	郡郡	浮穴郡		郡郡	郡郡
—	—	二		—	—
人	人	人		人	人

區三第	區二第	區一第	高知縣	區六第	區五第	區四第
安香	香高	幡多	議員總數四人	北南	東西	宇新
藝美	川岡	長岡		宇和	宇和	摩居
郡郡	郡郡	郡郡		郡郡	郡郡	郡郡
—	—	—		—	—	—
人	人	人		人	人	人

熊本縣 議員總數八人

第一區	熊本區	二	人
第二區	鹿本郡	一	人
第三區	山鹿郡	二	人
第四區	上益城郡	一	人
第五區	八代郡	一	人
第六區	天草郡	一	人

宮崎縣 議員總數三人

第一區	宮崎郡	一	人
第二區	北諸縣郡	一	人
第三區	鹿兒島縣	一	人

第三區	日笠郡	一	人
第四區	高城郡	一	人
第五區	阿多郡	一	人
第六區	出雲郡	一	人
第七區	大島郡	一	人

〔三〕貴族院令 明治二十二年二月十一日公布 勅令第十一號

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕ガ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

御名 御璽 明治二十二年二月十一日

- 內閣總理大臣 伯耆黑田清隆
- 樞密院議長 伯耆伊藤博文
- 外務大臣 伯耆大隈重信
- 海軍大臣 伯耆西郷從道
- 農商務大臣 伯耆井上馨
- 司法大臣 伯耆山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯耆松方正義
- 陸軍大臣 伯耆大山巖
- 文部大臣 臣子齋藤森有禮
- 遞信大臣 臣子齋榎本武揚

勅令第十一號 貴族院令 第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

第三類 第一章 議會

- 一 皇族
- 二 公侯爵
- 三 伯子男爵各其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者
- 四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者
- 五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者
- 第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス
- 第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ
- 第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歲ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 前項議員ノ數ハ伯子男爵各總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス
- 第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ
- 第六條 各府縣ニ於テ滿三十歲以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直

- 接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス
- 第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス
- 第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ
- 第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ
- 貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ
- 除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス
- 第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ
- 被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ
- 第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル
- 第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ
- 〔四〕衆議院議員選舉法貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目 明治二十二年三月二十七日公布
- 勅令第四十一號
- 衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月二十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵松方正義
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四十一號

衆議院議員選舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スルモノ左ノ如シ

地租
所得稅

● 伺指令

● 衆議院議員選舉人被選舉人資格ノ伺指令 明治二十二年三月十一日 高知縣局

本年法律第三號衆議院議員選舉法ニ由ルトキハ同法第十四條第四項ニ該當スルモノハ選舉被選舉ノ資格ナク而シテ刑法第六十四條ニハ大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サルハ復權ヲ得スト大赦特赦ノ分界判然セリ抑大赦ナルモノハ唯リ其罪ヲ免スニ止マラス其罪囚ヲシテ會テ罪ヲ犯セシコトナキ純良ノ人トナシ以テ社會ニ出スノ精神ニ依リ自カラ直チニ復權ヲ得セシムルモ議員選舉法第十四條ニ掲クル赦免ノ文字ハ大赦特赦ヲ同一視シ同條第五ノ項ニ該當スルモノハ復權後尚三箇年間ハ公權中ノ一部ヲ停止スルハ大赦ノ精神ニ對シ稍妥當ヲ缺クモノ、如シ然リト雖トモ文字上ノ見解ヲ下ストキハ議員選舉法第十四條ニ掲クル赦免ノ文字ニハ大赦特赦ヲ包含セルモノト解釋致シ可然哉
内務省指令 明治二十二年三月十六日

大赦ヲ受ケタル者ハ法律第三號第十四條第五兩項ノ赦免ニ包含セス

● 府縣會區町村會ニ係ル沿革要領

明治十一年七月第十八號布告ヲ以テ始メテ府縣會規則ヲ頒布ス○同月二十二日達ヲ以テ地方ノ便宜ニ從ヒ町村會及又ハ區會設テ開設スルコトヲ得セシム○十三年四月第十五號布告ヲ以テ府縣會規則ヲ改正ス○同月第十八號布告ヲ以テ區町村會法ヲ定ム○同年十一月第四十九號布告ヲ以テ前令中第三十六條ヨリ第四十九條マテヲ追加ス○十四年二月第四號布告ヲ以テ府縣會規則第五條第九條第三十三條第三十四條第三十七條中ヲ加除ス○同月第六號布告ヲ以テ府縣會ハ其議定スヘキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會若クハ水利土功會ニ讓セシム○同月第七號布告ヲ以テ區町村會法第八條ヲ改正ス○同月第八號布告ヲ以テ區郡部會規則ヲ定ム○同月第二十號布告ヲ以テ前令中へ但書ヲ追加ス○同年七月第三十八號布告ヲ以テ小學校設置區域町村ノ境界ニ仍リ雜ク別ニ區域ヲ畫シテ其區域内ニ於テ會議ヲ要スルトキ區町村會法ニ準據ノ件ヲ示ス○同年十月第九十一號達ヲ以テ府縣會審理事務手續ヲ定ム○十五年二月第十號布告ヲ以テ十三年第十九號布告中ヲ改正ス○同月第十一號布告ヲ以テ區町村會法第十條但書ヲ改正ス○同月第十二號布告ヲ以テ區郡部會規則中第六條第七條ヲ削除シ第九條ヲ追加ス○同月第十一號達ヲ以テ府縣會開設中議員建議書ヲ携ヘ上京スルヲ禁ス○同年十二月第六十八號布告ヲ以テ十三年第十五號及第四十九號布告中改正追加ス○同月第七十號布告ヲ以テ府縣會議員會議ノ事項ニ付他ノ府縣會議員ト集會往復通信スルヲ禁ス○十七年五月第十四號布告ヲ以テ十三年第十八號布告區町村會法ヲ改正ス○同月第十五號布告ヲ以テ區町村會法中木費負擔者處分方ヲ定ム○同年七月第二十一號布告ヲ以テ十四年第三十八號布告但書ヲ改正ス○同月第二十三號布告ヲ以テ區町村ニ於テ評決シタル區町村費ニ對シ不服アル者出訴方ヲ定ム○同年十二月第二十八號布告ヲ以テ府縣會規則第三十一條中ヲ改正ス○十八年八月第二十二號布告ヲ以テ北海道三縣ニ於テ協議費負擔者處分方並ニ不服者出訴方ヲ定ム○同月第二十三號布告ヲ以テ十四年第三十八號布告中ヲ改正ス○同年八月第二十五號布告ヲ以テ土地ニ賦課スル區町村

費ヲ定ム○同年十二月第七十八號達ヲ以テ十四年第九十一號達中ヲ改正ス○二十年九月勅令第四十六號ヲ以テ高等
中學校設置區域内府縣委員會規則ヲ定ム○二十一年四月法律第一號ヲ以テ市制町村制ヲ制定シ該法律施行ノ日ヨリ
區町村會注ヲ廢ス○二十二年二月法律第六號ヲ以テ府縣會議員選舉規則ヲ定ム○同月法律第七號ヲ以テ市制施行ニ
付府縣會議員選舉資格ヲ定ム○同年三月法律第十一號ヲ以テ水利土功會及學事ニ關スル町村會ハ市町村制施行後ト雖
モ之ヲ存續スルコトヲ得セシム

第五十四 府縣會規則 明治十三年四月八日 布告第十五號

明治十一年七月第拾八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

- 第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時
ニ開ク者ヲ臨時會トナス
- 第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事〔縣令〕ヨリ之ヲ發ス
- 第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス
- 第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事〔縣令〕其議
決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ府知事〔縣令〕ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ
認可スヘカラスト思慮スルトキハ內務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ布告ヲ以テ本項ヲ
追加ス

十四年第八十
一號公達(第
九十五)第五
條ニ於テ第五
條ハ臨時府縣
會ノ臨時會ヲ
得

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受
ケ府知事〔縣令〕ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務
大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事〔縣令〕若クハ其代理人之ヲ
說明スヘシ十五年十二月第六十八號
布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議
ヲナサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所
見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ內務卿ニ建議シ又ハ府知事〔縣令〕ニ建議スルヲ得

但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限リ建議スルヲ得十五年二月第十號布告ヲ
以テ全條但書共改正ス

第八條 府縣會ハ府知事〔縣令〕ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコト
アルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事〔縣令〕ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得
府縣會ハ議員ノ内招集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タ
ルヲ決スルヲ得
府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙
方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事〔縣令〕ハ其議事若クハ
會議ヲ中止スルコトヲ得十四年二月第四號布告
ヲ以テ本項ヲ追加ス

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ

每郡區議員定數ノ外補缺員トシテ十人以下ヲ増選スルヲ得十五年二月第十號布告本項追加

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ內務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其領ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ル者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者

刑滿期後五年ヲ經サル者十五年二月第十號布告本款改正

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏教導職及陸海軍諸卒現役ノ者同上

十七年第十九號布達ヲ以テ教導職ヲ廢ス

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ撰擧スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル者及陸海軍軍人現役ノ者ハ撰擧人タルコトヲ得ス同上但

第十五條 二十二年二月法律第六號ヲ以テ廢止ス

第十六條 撰擧ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰擧會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ撰擧會ヲ開クコトヲ得

第十七條 同上廢ス

第十八條 同上廢ス

第十九條 同上廢ス

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノハヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第三類 第一章 議會

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍スルカ其他
總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス十五年二月第十號布告ヲ以テ(轉任)ヲ(轉籍)ト改ム
但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續
ニ據ル同上但書追加

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事(縣令)若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議
ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事(縣令)ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ
禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レハ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルコ
トヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハ
サル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處
分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事(縣令)ヨリ之ヲ命ス
會期ハ三十日以内トス但(區部)郡都會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコトヲ得十
年十二月第六十八號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十七年十二月第廿八號布告
ヲ以テ更ニ(毎年一度)ノ下(三月)ヲ(十一月)ト改メ十八年一月ヨリ施行セシム

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事(縣令)ハ臨時會ヲ開クコトヲ
得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ內務卿ニ報告スヘシ同上

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ
府知事(縣令)ハ會議ヲ中止セシメ內務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ

府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラ
サルトキハ府知事(縣令)ハ更ニ其議定ヲ要セス內務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行ス
ルコトヲ得十四年二月第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加シ十
五年十二月第六十八號布告ヲ以テ全條改正

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事(縣令)ハ其事
由ヲ內務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ十四年二月第四號布告
ヲ以テ本項ヲ追加ス

第一項ノ場合ニ於テ內務卿ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間
ハ府知事(縣令)ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ內務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス
ルコトヲ得十五年十二月第六十八號
布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ內務
卿ハ何レノトキヲ問ハス議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得十四年二月第四號布告ヲ以
テ(開ハス)ノ下七字ヲ削ル

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未々議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ同上本項追加

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員以下十三年四月第四十九號布告ヲ以テ追加

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

常置委員定數ノ外數名ヲ増選シ缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得十五年二月第十號布告ヲ以テ本項及次項ヲ追加ス

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ郡區各部ニ之ヲ選任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事縣令ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得十五年十二月第六十八號布告ヲ以テ全條改正

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員諮問ノ會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス十五年二月第十號布告ヲ以テ

第四十一條 諮問會ハ府知事縣令ヲ以テ議長トナシ其他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ同上全條改正

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ケ年トシ議員改選毎ニ之ヲ改選ス但期限ニ至リ再選スルヲ得同上(トシ)ノ下十三字ヲ加フ

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事縣令之ヲ選任ス同上(議長)ヲ

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

〔二〕區郡部會規則 明治十四年二月十四日 布告第八號

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡部會議規則左ノ通相定メ明治十三年五月第貳拾六號及第貳拾七號布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行スルコトヲ得十四年三月第二十號布告ヲ以テ但書ヲ加フ

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ增加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルニアラサレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第六條 十五年二月第十二號布告ヲ以テ刪除

第七條 同上

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方稅ノ中區郡連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區郡ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

第九條 區部ニ係ル戸數割ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ家屋稅ト爲スコトヲ得同上

〔二〕府縣會其議定スヘキ事件ノ細目ニ係ル事項ヲ區町村會等ノ議ニ付スルヲ得明治十四年二月十四日布告第六號

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

〔三〕府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會往復通信ヲ禁ス明治十五年十二月二十八日布告第七十號

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルコトヲ許サス

其集會スル者何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事縣令ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムルトキハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス
右奉 勅旨布告候事

十三年第拾二號布告ヲ以テ集會條例ヲ頒布ス(第七十六)

〔四〕府縣會議員選舉規則 明治二十二年二月二十八日公布 法律第六號

朕府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年二月二十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵松方正義

法律第六號

府縣會議員選舉規則

- 第一條 (戶長)ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ
- 選舉人名原簿ニハ選舉人ノ氏名、住所、生年月、納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ
- 第二條 郡長ハ(戶長)ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
- 第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十五日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ
- 選舉人名原簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ
- 第四條 府縣會議規則第十三條ノ年齢及ヒ年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限

界ト爲シ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財産主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 選舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地(區戶長)ノ證狀ヲ添ヘ選舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居地ノ區戶長ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ爲サハル納稅額ハ選舉及ヒ被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ選舉人名原簿及ヒ選舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縦覽期限内ニ之ヲ郡區長ニ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラス速ニ其裁判ヲ爲スヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ト雖モ控訴スルコトヲ許サス但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 選舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ改正期日迄之ヲ據置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタルトキヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ選舉ヲ行フ前ニ於テ選舉權ヲ失ヒ若クハ選舉權ヲ有セサリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

第十四條 選舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補闕選舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 議員ヲ選舉スヘキトキハ少クトモ一箇月前ニ府縣知事ヨリ其月日、選舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻、選舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ選舉スヘキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

管內ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ選舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡(區)長ハ其管内ノ選舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉會場ニ參會セシムヘシ

第十八條 郡區長ハ選舉會場トナリ選舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書立會人ヲ定ムヘシ

第十九條 郡區長ハ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ選舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ選舉人中最多額ノ地租ヲ納ムル者ヲ以テ假ニ其闕ヲ補フヘシ

第二十條 選舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第二十一條 選舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及ヒ選舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘ置クヘシ

投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

投票函ハ投票ニ先チ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用非投票ノ當日選舉會場ニ備ヘ置キ選舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ
 用紙ハ正議員ノ外補闕員ノ増選ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙ト爲シ乙種ハ補闕員ノ爲メノ用紙ト爲スヘシ
 第二十二條 選舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス
 第二十三條 選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ被選舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ナシ
 第二十四條 選舉人投票ヲ爲サントスルトキハ選舉會長ハ其住所氏名ヲ選舉人名簿ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ
 第二十五條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ立會人ニ示シタル後捺印投票セシムヘシ
 第二十六條 選舉ニ關スル吏員及ヒ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニ在ラス
 第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラレヘキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニ在ラス
 第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ呼入ルコトヲ得
 選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
 第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉會長ハ其投票ヲ取上クヘシ
 第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セサリシ者ナキヤヲ以テシ若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ
 第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘシ
 第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ逐次投票ヲ取出シ被點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名ヲ朗讀セシメ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得點ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ
 前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ
 第三十四條 選舉人ハ投票點檢ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得點ノ

合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他書記ノ事務ハ總テ選舉會長並ニ立會人ノ面前ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ査定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤ヲ用井其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調査ニ必要ナル時日ノ間其査定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス

當選タルヘキ多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ

當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニシテ直ニ其當選ヲ定メ難キトキハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 點檢濟ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉會長立會人並ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ選舉ニ關シ訟

訴又ハ告訴發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ選舉錄中ニ記入スヘシ

- 一 選舉開會ノ月日並ニ時刻
 - 二 選舉會長及ヒ書記ノ氏名
 - 三 立會人ノ住所氏名
 - 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其顛末
 - 五 第三十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ其顛末
 - 六 投票函閉鎖ノ時刻
 - 七 各被選舉人ノ得點數
 - 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由
 - 九 選舉閉會ノ時刻
 - 十 右ノ外選舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項
- 當選ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ
- 第四十條 選舉錄ニハ選舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ
- 第四十一條 當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其本籍地ノ郡(區)長ニ照會シ被選舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス
 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス
 二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ
 三 選舉人又ハ被選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
 四 選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカラサルモノ
 五 選舉人被選舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限ニ在ラス
 六 被選舉人ノ氏名ノ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカラサルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
 七 被選舉權ナキ者ヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス
 第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモノ之ヲ無効トセス又定數ニ過クルトキハ前條第六第七ニ觸ル、モノアルト否トヲ問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ
 一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ
 第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用ユルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有効トスヘシ

第四十五條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ルコトヲ得ス
 第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過クルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不便ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設クルコトヲ得
 分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所屬ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ
 第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉錄ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシテ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得
 第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ
 分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其地ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ
 第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及ヒ書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ望ム者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待
チ第三十三條ノ手續ヲ爲シ合算ノ上總數ヲ以テ當選ヲ定ムヘシ

第五十一條 當選者ノ定マリタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當選者ニ通知スヘシ
當選者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲スヘシ若シ當選ノ
通知ヲ爲シタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタルモノト
見做スヘシ

當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次點者ヲ以テ當選者ト爲スヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當選者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補關員ヲ增選スルトキハ其選舉ハ正議員選
舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ

第五十五條 一人ニシテ正議員補關員ノ選ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員ト爲シ其次點者
ヲ以テ補關員當選ト爲スヘシ

第五十六條 當選ノ查定ニ不服アル關係者ハ當選者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事
ニ其更正又ハ選舉取消ノ申立ヲ爲スコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサル者ハ二十日以
内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但其判決ハ終審トス

第五十七條 當選者確定ノ後其當選者ノ被選舉權ヲ有セザリシコトヲ發見スルトキハ府

縣知事ハ其當選ヲ取消シ其次點者ヲ以テ當選ト爲スヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管
内ニ告示スヘシ

第五十八條 選舉全會ヲ取消シ更ニ選舉ヲ命スルハ其選舉ノ選舉規定ニ違フ場合ニ限ル
但規定ニ違フ所アルモ其事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ
得ヘキモノハ取消ノ限ニ在ラス

選舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲ爲スヘシ但其事由
ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齡其他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ記載セラレ
タル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其被選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當
選者ト爲リタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當選者ト爲リタル者ハ十
圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑
止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル
者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ
直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投
票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四
條ノ例ヲ以テ論ス其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サハル者モ亦同シ

第六十一條 戎器又ハ兇器ヲ携帶シテ選舉會場ニ入りタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉人ヲ脅嚇スル者又ハ選舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十四條 多衆ヲ嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十五條 當選者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第六十六條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 選舉ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス
第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ抵觸スル規定

刑法(第二百七十八)第三
章第一節參看

ハ總テ之ヲ廢止ス

附則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラヌ選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ
前項ノ名簿調製前議員ノ選舉ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ
島司ヲ置ヤタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

〔五〕市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件 明治二十

二十八年公布
法律第七號

朕市制施行ニ付府縣會議員ノ選舉及市公民ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治二十二年二月二十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵松方正義
大藏大臣伯爵松方正義

法律第七號

第一條 市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セス

第三類 第一章 議會

第二條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選舉ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規定並區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通タルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員ノ數ヲ増減スヘキトキハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得此場合ニ於テ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其増加スヘキ議員ハ新ニ選舉スヘシ

第三條 郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選舉ノ區域ハ之ヲ變更セシ其選舉事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選舉ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辯スヘシ

第四條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辯シタル事業ニシテ市ノ事業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條 郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ又ハ町村ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シテ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ

第六條 郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中專ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

十八年第七十一號
一號
參事院ヲ以テ
同第七十四號
達ヲ以テ官制
局ヲ置キ官制
ヲ定ム(第八
ノ六)

〔六〕府縣會審理事務手續 明治十四年十月二十八日 大政官達第九十一號官省院(使)廳府縣
令被參事院ヲ被置候ニ付本年二月六號達審理局ヲ被廢車務手續左ノ通被定候條此旨相達候事但本文ノ儀ハ府縣會ニ達シ置クヘシ

第一條 本年第四號布告府縣會規則第九條追加ニ依リ府知事縣令及ヒ府縣會ヨリ裁定ヲ請フノ具狀書ハ府知事縣令ニ於テ之ヲ取纏メ法制局長官ニ當テ差出スヘシ 十八年十二月太政官達第七十八號ヲ以テ參事院議長ヲ法制局長官ト改ム

第二條 裁定ヲ要スル事件具狀書ヲ以テ悉サハルトキハ府知事縣令若クハ其代理人及ヒ府縣會總代自ラ法制局長官ニ出頭シテ之ヲ辨明シ又ハ法制局長官ヨリ之ヲ召喚シテ尋問スルコトアルヘシ 同上達ヲ以テ參事院ヲ法制局長官ト改ム

但府縣會總代ハ其議員タル者ニ限ル

第三條 裁定書ハ其議決ノ理由ヲ詳記シ審理委員連署シテ之ヲ發付スヘシ

〔七〕府縣會規則第七條ニ依リ內務卿ニ建議スル場合ニ於テ議員上京方 明治十五年十二月二日 大政官達第十一號達府縣會規則第七條ニ依リ內務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ帶上京等ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相達候事

但本文ノ趣府縣會ニ相達シ置クヘシ

〔八〕府縣會規則第二十一條ニ據リ議員改選ノ上就職交替手續 明治十四年七月四日 內務省布達甲第四號

府縣會規則第二十一條ニ據リ議員改選之上其就職交替ノ手續ハ豫メ府縣會ニ於テ議定セシメ府知事縣令認可ノ上施行可致此旨相達候事

〔九〕府縣會規則心得條件 明治十三年十二月二日 內務省達乙第四拾八號府縣會規則第二十一條ヲ以テ府縣會規則追加公布相成候ニ付左ノ條件爲心得相達候事

- 一〔常置委員ハ來十四年通常會開會前ニ於テ選任スヘシ 同年七第五十三號省達ヲ以テ第一〕
- 一〔十三年度中常置委員ノ月手當及往復旅費ハ委員ヲ撰舉セシムル臨時會ニ於テ議定セシムヘシ〕
- 一郡區經濟ヲ興ニスル府縣ニ在テハ定員内ニ於テ其郡區選出ノ人員ヲ定ムルコトヲ得
- 一常置委員補欠ノ爲相當ノ豫備員ヲ撰ヒ置クモ妨ケナシ
- 一第四十一條ニ據リ議長ハ府知事縣令之ヲ勸ムト雖正本務ノ都合ニ依リ書記官之レカ代理ヲ爲スヲ得
- 一第四十六條ノ通委員ノ任期ハ二ケ年タルヘシト雖正若シ議員本分ノ任期ヲ終ヘタルモノハ其本分ノ任期ト共ニ委員ノ任期モ終リタルモノトス
- 一常置委員會議ノ細則ハ該會ニ於テ議決シ府知事縣令認可ノ上施行スヘキモノトス

〔十〕高等中學校設置區域内府縣委員會規則 第二百七ノ二項ニ掲ク

第五十五 區町村會法 明治十七年五月七日 明治十二年四月第十八號布告區町村會法左ノ通改正ス

區町村會法

- 第一條 區町村會ハ區町村費ヲ以テ支辨スル事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス
- 第二條 區町村會ノ會期、議員ノ員數、任期、改選及其他ノ規則ハ府知事縣令ヲ之ヲ定ム
- 第三條 區會ハ區長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス町村會ハ戶長之ヲ招集シ其議案ヲ發ス
- 第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ其施行ヲ止メ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

市制町村制施行ノ地ハ本令ヲ廢ス但法律第十一號ニ依リ存続ノ分ハ本令ニ從フ

- 第五條 區長ニ於テ區會、郡〔區〕長〔戶長〕ニ於テ町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ其會議ヲ中止シ府知事縣令ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
- 第六條 府知事縣令ニ於テ區町村會ノ議事若シ法ニ背キ又ハ治安ヲ害スルコトアリト認ムルトキハ何時タリトモ區町村會ヲ停止シ又ハ之ヲ解散シテ改選セシムルコトヲ得
- 第七條 前條ノ場合ニ於テ停止又ハ解散ヲ命シタルトキハ更ニ開會ヲ命シ又ハ改選スル迄ノ間區長戶長ハ經費ノ支出徵收方法ヲ定メ府知事縣令ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得
- 第八條 區町村ニ於テ議員ヲ選舉セス又ハ議員招集ニ應セシメテ會議ヲ開クヲ得ス及議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期内ニ於テ議案ヲ評決シ終ラサルトキハ前條ノ例ニ依ル
- 第九條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款ニ觸ル、者及陸海軍々人現役ノ者ハ選舉人タルコトヲ得ス
- 第十條 議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歲以上ノ男子ニシテ其區町村ニ住居シ其區町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ニ限ル但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス
- 第十一條 區會ノ議長ハ區長町村會ノ議長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ區長戶長若シ事故アルトキハ〔區長戶長〕ニ於テ議員中ヨリ議長ヲ指定スルコトヲ得
- 第十二條 府知事縣令其管轄内ニ於テ町村會ヲ開設シ得ヘカラサル狀況アルヲ認ムルトキ

第三類 第一章 議會

ハ内務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第十三條 府知事縣令ハ數區町村ニ關涉スル事件アルトキ其區域ヲ定メテ聯合區町村會ヲ開設スルコトヲ得

第十四條 府知事縣令ハ水利土功ニ關スル事項ニシテ區町村會若クハ聯合區町村會ニ於テ評決スルヲ得サルモノアルトキ特ニ其區域ヲ定メテ水利土功會ヲ開設スルコトヲ得

第十五條 聯合區町村會及水利土功會ハ總テ本法ニ準據ス其區域區長戸長數人ノ所轄ニ涉ルモノハ府知事縣令便宜郡區長ヲシテ之ヲ管理セシム但戸長ヲシテ其評決ヲ施行セシムルコトアルヘシ

右奉 勅旨布告候事

〔一〕區町村費及土木費怠納者處分 明治十七年五月七日布告 第十五號

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費及ヒ水利土功會ニ於テ評決シタル土木費ノ怠納者ハ總テ明治十年^{十一月} 第七十九號布告ニ據リ處分ス可シ若シ財産公賣ノ際買受望人ナキトキハ官没ノ手續ヲ爲サス郡區長又ハ戸長ニ於テ之ヲ管掌シ會議ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ認可ヲ得テ處分ス可シ

但明治十四年^{四月} 第貳拾四號布告ハ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

〔二〕區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アル者出訴方 明治十七年

十年第七十九號布告ハ第八百三十四ニ掲出ス

年七月四日布告

第二十三號

區町村會ニ於テ評決シタル區町村費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ都テ明治十五年^{五月} 第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

〔三〕北海道三縣ニ於テ協議費怠納者處分方並右協議費ニ關シ出訴方 明治十八年八月十日

布告第二十二號

函館札幌根室三縣ニ於テ區町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明治十七年^{五月} 第拾五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服アリテ出訴セントスルモノハ同年^{七月} 第貳拾三號布告ニ據ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

〔四〕土地ニ賦課スル區町村費ノ制限 明治十八年八月十五日 布告第二十五號

土地ニ賦課スル區町村費ハ明治十九年度ヨリ地租七分ノ一ヲ超過スルヲ得ス但非常ノ費用ハ^{預知スヘカ}ラサル^{災時變ノ費用ヲ云}天別ニ賦課スルヲ得此場合ニ於テハ區町村會若クハ水利土功會ノ評決ヲ取り府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ

右奉 勅旨布告候事

〔五〕水利土功及學事ニ關スル町村聯合會ハ區町村會法ニ依リ市町村制

十五年第二十二號布告ハ第八百五十四ニ出ス

施行後モ存續スルヲ得 明治二十二年三月二十二日公布
法律第十一號

朕水利土功及學事ニ關スル會議存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年三月二十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

内務大臣伯爵松方正義

文部大臣伯爵大山 巖

法律第十一號

從來開設シタル水利土功會又ハ水利土功若クハ學事ニ關スル町村聯合會ハ明治十七年五月第十四號布告區町村會法ニ依リ又學區會ハ同法第十四條第十五條ニ準據シ市制町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ之ヲ存續スルコトヲ得

〔六〕區町村公共ノ共有物ハ區町村會ニ於テ評決セシム 明治二十年十一月五日
内務省訓令第四十七號府縣
區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ渾テ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令訓令ハ取消ス

〔七〕區町村費支辨ノ事業ニ關スル寄附金穀物件ノ費途使用方及區町村費ノ雜收入區町村會ノ評決ニ付セシム 明治二十年十二月二十二日
内務省訓令第五十一號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ區町村會ノ評決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充テシムヘシ

區町村費ノ雜收入ハ他ノ收入ト同シク區町村會ノ評決ニ付セシムヘシ

第二章 郡區市町村

●郡區町村ニ關スル沿革要領

明治四年四月戶籍法則ヲ頒布シ地方ノ便宜ニ隨ヒ區畫ヲ定メ戶長并副ヲ置ク○五年四月第十七號布告ヲ以テ莊屋名主年寄等總テ相廢止戶長副戶長ト改稱シ土地人民ニ關係ノ事件ハ一切之ヲ取扱ハシム○同年十二月大藏省第百四十六號布達ヲ以テ一區ニ區長小區ニ副區長ヲ置キ給料其他費用トモ悉皆民費ノ積ニ心得シム○九年十二月第百十七號達ヲ以テ浦役場ヲ設置シ區長戶長ヲシテ浦役人ヲ兼シム○同年十月第百三十號布告ヲ以テ各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則ヲ定ム○十一年七月第十七號布告ヲ以テ郡區町村編制法ヲ頒布シ郡區ニ郡區區長ヲ置キ各町村又ハ數町村戶長一員ヲ置ク○同月第三十二號達ヲ以テ戶長職務ノ概目ヲ定ム○同年八月内務省第七百五十四號ヲ以テ戶長ハ其町村人民ニ於テ可成公選セシムヘキ旨ヲ達ス○十七年五月内務省第七百二十四號ヲ以テ戶長役場費ハ地方稅ヨリ支辨スヘキ旨ヲ達ス○同月第四十一號達ヲ以テ戶長選任方ヲ定ム○同月内務省第七百二十七號達ヲ以テ地方稅規則改正ニ付戶長以下ニ屬スル給與ハ渾テ地方稅ヨリ支辨セシム○二十一年四月法律第一號ヲ以テ市制町村制ヲ頒布シ市ニ市長町村ニ町村長ヲ置キ市會町村會及市町村吏員ノ取扱方等ヲ定メ該法律施行ノ日ヨリ九年第百三十三號布告十一年第十七號布告ノ内其他本制ニ抵觸セル從前ノ成規ヲ廢ス

第五十六 郡區町村編制法 明治十一年七月二十二日 布告第十七號

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

第三類 第二章 郡區市町村

十四年第三十八號布告(第一二八八)一(項)參看

市制町村制ニ依リ市町村制施行ノ地方ハ第四條第六條及第九條但書ヲ廢ス

第一條 地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル

第三條 郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡トナス 東西南北上中下某郡ト云カ如シ

第四條 三府五港其他人民幅濶ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者ハ區分シテ數區トナス

第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少ナルモノハ數郡ニ一員ヲ置クコトヲ得

第六條 〔每町村ニ戶長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クコトヲ得〕
〔但區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戶長ノ事務ヲ兼ヌルコトヲ得〕

第七條 此編制法ヲ施行シ難キ島嶼ハ其制ヲ異ニスルヲ得 以下十三年五月第十號布告ヲ以テ追加

第八條 地方ノ便益若クハ人民ノ請願ニ由リ止ムヲ得サル理由アルモノハ郡區町村ノ區域名稱ヲ變更スルコトヲ得

第九條 第三條第四條第七條第八條ノ施行ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

〔但町村區域名稱ノ變更ハ內務卿ノ認可ヲ受クヘシ〕

第五十七 市制町村制 明治二十一年四月二十五日公布 法律第一號

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存

重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年四月十七日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文
內務大臣伯爵山縣有朋

法律第一號

市制

第一章 總則

第一款 市及其區域

第二款 市住民及其權利義務

第三款 市條例

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 市行政

第一款 市參事會及市吏員ノ組織選任

第二款 市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程

第三類 第二章 郡區市町村

第三款 給料及給與

第四章 市有財産ノ管理

第一款 市有財産及市税

第二款 市ノ歳入出豫算及決算

第五章 特別ノ財産ヲ有スル市區ノ行政

第六章 市行政ノ監督

第七章 附則

市制

第一章 總則

第一款 市及其區域

第一條 此法律ハ市街地ニシテ郡ノ區域ニ屬セス別ニ市ト爲スノ地ニ施行スルモノトス

第二條 市ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受

ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 凡市ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此

法律ニ準據ス可シ

第四條 市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ市ニ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町

村制第四條ヲ適用ス

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者

ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 市住民及其權利義務

第六條 凡市内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其市住民トス

凡市住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物並市有財産ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及市ノ

負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキ

ハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)市ノ住民トナリ(二)其市

ノ負擔ヲ分任シ及(三)其市内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者

ハ其市公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ

依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者

ヲ云フ

第八條 凡市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セララル、ノ權利アリ又其名譽職ヲ

擔任スルハ市公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

第三類 第二章 郡區市町村

五年第百八十七號布告(第七百七十六)以下十年第七

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
 二 營業ノ爲メニ常ニ其市内ニ居ルコトヲ得サル者
 三 年齢滿六十歳以上ノ者
 四 官職ノ爲メニ市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
 五 四年間無給ニシテ市吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間市會議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
 六 其他市會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若シクハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ市會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其市公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔スヘキ市費ノ八分一乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得

前項市會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 市公民タル者第七條ニ掲職スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

市公民タル者身代限處分中又ハ公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ裁判上ノ訊問若クハ拘留中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス

十九號布告(第三百三十一)以下第七百七十八)以下三十一條以下參看

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與セサルモノトス

市公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ解ク可キモノトス

第三款 市條例

第十條 市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各市ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

市ニ於テハ其市ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十一條 市會議員ハ其市ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ人口五萬未滿ノ市ニ於テハ三十八トシ人口五萬以上ノ市ニ於テハ三十六トス

人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口五萬ヲ加フル毎ニ人口二十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員三入ヲ増シ六十人ヲ定限トス

議員ノ定員ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得但定限ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 市公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラル、者(第八條第三

項第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス
凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接市税ヲ納ムル者其額市公民ノ最多ク納税スル者三名中ノ
一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラ
ル者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

第十三條 選舉人ハ分テ三級ト爲ス

選舉人中直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ル可
キ者ヲ一級トス

一級選舉人ノ外直接市税ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當
ル可キ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納税者二名
以上アルトキハ其市ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難

キトキハ年數ヲ以テ年數ニモ依リ難キトキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選舉人每級各別ニ議員ノ三分一ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス二級ニ通シテ
選舉セラルコトヲ得

第十四條 區域廣濶又ハ人口稠密ナル市ニ於テハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得但
特ニ二級若クハ三級選舉ノ爲メ之ヲ設クルモ妨ケナシ

選舉區ノ數及其區域並各選舉區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ市條例ヲ以テ選舉人ノ員數ニ
準シ之ヲ定ム可シ

選舉人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定ム其市内ニ住居ナキ者ハ課税ヲ受ケタル物件
ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亘リ納税スル者ハ課税ノ最多キ物件ノ所在ニ依
テ之ヲ定ム可シ

選舉區ヲ設クルトキハ其選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツ可シ

被選舉人ハ其選舉区内ノ者ニ限ラサルモノトス

第十五條 選舉權ヲ有スル市公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ市會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣ノ官吏
- 二 有給ノ市吏員
- 三 檢察官及警察官吏
- 四 神官僧侶及其他諸宗教師
- 五 小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

代官人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲
ス者ハ議員ニ選舉セラルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ市會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

市參事會員トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者市參事會員ノ任ヲ受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十七條 議員中闕員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ市會市參事會若クハ府縣知事ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス
定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之ヲ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 市長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ

記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ原簿及名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間市役所又ハ其他ノ場所ニ於テ之ヲ關係者ノ縦覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ市長ハ市會ノ裁決(第二十五條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ市長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級各區ニ分テ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ市長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ市長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ選舉掛ヲ設ク可シ

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自
ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ
之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセ
ス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス
第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立
ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人
ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人
ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條 議員ノ選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ
年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ
前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十六條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選
舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十七條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ
辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ
申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ
爲ス可シ

第二十八條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之
ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得(第二十五條第一項)

市長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ府縣知事ニ報告シ府縣知事ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議ア
ルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス府縣參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得
選舉ノ定期ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セ

サル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ
第二十九條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市會之ヲ議決ス

第二款 職務權限及處務規程

第三十條 市會ハ其市ヲ代表シ此法律ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セララル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十一條 市會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 市條例及規則ヲ設ケ並ニ改正スル事
- 二 市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス
- 三 歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、市税及夫役現品ノ賦課徴收ノ法ヲ定ムル事
- 六 市有不動産ノ賣買交換讓受讓渡並賃入書入ヲ爲ス事
- 七 基本財産ノ處分ニ關スル事
- 八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又權利ノ棄却ヲ爲ス事

九 市有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十 市吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一 市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十二條 市會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル市吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十三條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十四條 市會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十五條 市住民及公民タル權利ノ有無、選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及市會議員選舉ノ効力(第二十八條)ニ關スル訴願ハ市會之ヲ裁決ス

市會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第三十七條 市會ハ每曆年ノ初メ一周年ヲ限リ議長及其代理者各一名ヲ互選ス

第三十八條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ市會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲スコシ

第三十九條 市參事會員ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十條 市會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキ又ハ市長若クハ市參事會ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スコシ其招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ會議ノ三日前タル可シ但市會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

市參事會員ヲ市會ノ會議ニ招集スルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條 市會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條 市會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決スコシ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス
議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ府縣參事會市會ニ

代テ議決ス

第四十四條 市會ニ於テ市吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ス
前項ノ選舉ニハ市會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條 市會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條 市會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名スコシ

市會ハ議事録ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ其議決ヲ市長ニ報告スコシ
市會ノ書記ハ市會之ヲ選任ス

第四十八條 市會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科スコシ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第三章 市行政

第一款 市參事會及市吏員ノ組織選任

第四十九條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ吏員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長 一名

二 助役 東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名

三 名譽職參事會員 東京ハ十二名京都大阪ハ各九名其他ハ六名

助役及名譽職參事會員ハ市條例ヲ以テ其定員ヲ増減スルコトヲ得

第五十條 市長ハ有給吏員トス其任期ハ六年トシ内務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セ

シメ上奏裁可ヲ請フ可シ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシム可シ再推薦ニシテ

猶裁可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間内務大臣ハ臨時代理者ヲ選

任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ市長ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十一條 助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ

但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決ス可シ

第五十二條 助役ハ有給吏員トシ其任期ハ六年トス

助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲

ス可シ再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣

知事ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十三條 市長及助役ハ其市公民タル者ニ限ラス但其任ヲ受クルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十四條 名譽職參事會員ハ其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ再選セラルコトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選舉ヲ爲ス可シ

第五十五條 市長及助役其他參事會員ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

同條第四項ニ掲載スル者ハ名譽職參事會員ニ選舉セラルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市參事會員タルコトヲ得ス若シ其緣故アル者市長ノ

任ヲ受クルトキハ其緣故アル市參事會員ハ其職ヲ退ク可シ其他ハ第十五條第五項ヲ適用

ス

市長及助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱

料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十六條 市長及助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコト

ヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知事ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條 名譽職參事會員ノ選舉ニ付テハ市參事會自ラ其効力ノ有無ヲ議決ス

第三類 第二章 郡區市町村

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市參事會之ヲ議決ス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其他ハ第三十五條末項ヲ適用ス

第五十八條 市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス
收入役ハ市參事會員ヲ兼マルコトヲ得ス

收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其他ハ第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十五條及第七十六條ヲ適用ス
收入役ハ身元保證金ヲ出ス可シ

第五十九條 市ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス

第六十條 凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス但東京京都大阪ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十二條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス但東京京都大阪ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

東京京都大阪ニ於テハ前條ニ依リ區ニ附屬員並使丁ヲ置クコトヲ得

第六十一條 市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ市參事會員又ハ市會議員ヲ以テ之ニ充テ又ハ市參事會員及市會議員ヲ以テ之ヲ組織シ又ハ會員議員ト市民中選舉權ヲ有スル者トヲ以テ之ヲ組織シ市參事會員一名ヲ以テ委員長トス

委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會之ヲ選舉シ選舉權ヲ有スル公民ヨリ出ツル者ハ市參事會之ヲ選舉シ其他ノ委員ハ市長之ヲ選任ス
常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十二條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外市會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十三條 市吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルハコトヲ得
市吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款 市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程
第六十四條 市參事會ハ其市ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス
市參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
一 市會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ市會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ

- 一 背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 市ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他市會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 市ノ權利ヲ保護シ市有財産ヲ管理スル事
- 五 市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ罷責及十圓以下ノ過怠金トス
- 六 市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若シクハ人民ト商議スル事
- 八 法律勅令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、市税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

- 九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事
- 第六十五條 市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員定員三分ノ一以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得
- 其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記ス可シ
- 市參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第六十六條 第四十三條ノ規定ハ市參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定ニ從ヒ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得サルトキハ市會之ニ代テ議決スルモノトス
- 第六十七條 市長ハ市政一切ノ事務ヲ指揮監督シ處務ノ滯滞ナキコトヲ務ム可シ
- 市長ハ市參事會ヲ召集シ之カ議長トナル市長故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ市町ハ市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス
- 第六十八條 急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スルノ暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

ハ關係者ノ申立ニ依リ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣都市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償ハ總テ市ノ負擔トス

第四章 市有財産ノ管理

第一款 市有財産及市稅

第八十一條 市ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡市有財産ハ全市ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ其市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有ズル者アルトキハ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 市住民中特ニ市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ市條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之

ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十二條、第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條 市會ハ市ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條、第八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 市有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 市ハ其必要ナル支出及從前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

市ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)並料、過怠金其他法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ市稅(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 市ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

第三類 第二章 郡區市町村

二 直接又ハ間接ノ特別税

附加税ハ直接ノ國税又ハ府縣税ニ附加シ均一ノ税率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トシ特別税ハ附加税ノ外別ニ市限リ税目ヲ起シテ課税スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條)特別税(第九十條第一項第二)及従前ノ區町村費ニ關スル細則ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ市參事會之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三箇月以上市内ニ滞在スル者ハ其市税ヲ納ムルモノトス但其課税ハ滞在ノ初ニ遡リ徴收ス可シ

第九十三條 市内ニ住居ヲ構ヘヌ又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖モ市内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得税ニ附加税ヲ賦課シ及市ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課セントスルトキハ納税者ノ市外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル

所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ市税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得税法第三條ニ掲グル所得ハ市税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲グル物件ハ市税ヲ免除ス

- 一 政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ市條例ニ依リ年月ヲ限リ免除スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外市税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル市税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數箇人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

擔ス可シ但其一區ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ
第百條 市税ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ市長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第百一條 市公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接市稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代ルコトヲ得

第百二條 市ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)市稅(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用及加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ市參事會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス
第百三條 地租ノ附加稅バ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル市稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條 市稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ市參事會ニ申立可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百五條 市稅ノ賦課及市ノ營造物、市有財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ市參事會之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニアラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス
第百六條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ム

ヲ得サル支出若クハ市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ其市住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收

入ヲ以テ償還ス可キモノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス

第二款 市ノ歳入出豫算及決算

第七七條 市參事會ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ
内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第七八條 豫算表ハ會計年度前市會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ
豫算表ヲ市會ニ提出スルトキハ市參事會ハ併セテ其市ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第七九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得
定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ市參事會ハ豫メ市會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第八十條 市會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其陰寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ケ可キ事項アルトキハ(第二百一十一條ヨリ第二百二十三條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ケ可シ

收入役ハ市參事會(第六十四條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第二百九條ノ規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第八十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ市長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ市長又ハ其代理者ノ外市會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第八十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事會ニ提出シ市參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ其市會ノ認定ヲ經タルトキハ市長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告ス可シ
決算報告ヲ爲ストキハ第三十八條及第四十三條ノ例ニ準シ市參事會員故障アルモノトス

第五章 特別ノ財産ヲ有スル市區ノ行政

第八十三條 市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得
第八十四條 前條ニ記載スル事務ハ市ノ行政ニ關スル規則ニ依リ市參事會之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 市行政ノ監督

第百十五條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百十六條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

市ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ市ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百十七條 監督官廳ハ市行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百十八條 市ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出

ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

市ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百十九條 凡市會又ハ市參事會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ府縣參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十條 内務大臣ハ市會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選市會ノ集會スル迄ハ府縣參事會市會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十一條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 市條例ヲ設ケ並改正スル事
- 二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入借入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第百二十二條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

- 二 市特別税並使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
 - 三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事
 - 四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事
 - 五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第二百二十三條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
 - 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
 - 三 市有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事
 - 四 各個人特ニ使用スル市有土地使用法ヲ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
 - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
 - 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事
 - 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
 - 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事
 - 九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事
- 第二百二十四條 府縣知事ハ市長、助役、市參事會員、委員、區長其他市吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ確實及過怠金トス其過怠金ハ二十五圓以下トス

- 追テ市吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ
- 一 市參事會ノ懲戒處分(第六十四條第二項第五)ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 二 府縣知事ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 三 本條第一項ニ掲載スル市吏員職務ニ違フコト再ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ヲサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十三條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス
- 總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス
- 四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 市長ノ解職ニ係ル裁決ハ上奏シテ之ヲ執行ス
- 監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得
- 第二百二十五條 市吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ市ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタル

トキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第七章 附則

第二百二十六條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第二百二十七條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二百二十八條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務并市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第二百二十九條 社寺宗教ノ組合ニ關シバ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第二百三十條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第二百三十一條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第二百三十二條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第四條明治十七年五月第十四號布告區町村會法明治十七年五月第十五號布告明治十七年七月第二十三號布告明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第二百三十三條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第二款 町村住民及其權利義務

第三款 町村條例

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第二款 町村吏員ノ職務權限

第三款 給料及給與

第四章 町村有財産ノ管理

第一款 町村有財産及町村稅

第三類 第二章 郡區市町村

- 第二款 町村ノ歳入出豫算及決算
- 第五章 町村内各部ノ行政
- 第六章 町村組合
- 第七章 町村行政ノ監督
- 第八章 附則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ス

其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラヌ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ裁決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物並町村有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二個年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者

ヲ云フ

第八條 凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラル、ノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齢滿六十歳以上ノ者

四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年

間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其

町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ増課ス

ルコトヲ得

前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府

縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

五年第百八十七號布告(第七百七十五)以下十年第七十九號布告(第百三十一)以下及刑法(第二百七十八)第三十一條以下參照

第九條 町村公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモ

ノトス

町村公民タル者身代限處分中又ハ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ裁判上

ノ訊問若クハ勾留中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス

町村公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ解ク可

キモノトス

第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコ

トヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告

式ニ依ル可シ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村

ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

第三類 第二章 郡區市町村

- 一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ 議員八人
- 二 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ 議員十二人
- 一 人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員十八人
- 一 人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ 議員二十四人
- 一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員二十八人

第十二條 町村公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セララル、者第八條第三項第九條第二項及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラヌト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラル、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス
 一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ヲ以テシ年數ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選舉ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス
 左ニ掲クル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏員
- 三 檢察官及警察官吏
- 四 神官僧侶及其他諸宗教師
- 五 小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ
 代言人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラル、コトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
退任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十七條 議員中闕員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス
定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ從テ之カ選舉ヲ行フ可シ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縦覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決(第三十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘ

テ確定名簿トナシ之ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ
各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其係長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセ
ス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セズ又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
 - 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 - 四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ
- 投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集テ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依

ル

第二十六條 議員ノ選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第三十七條第一項)

町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セ

サル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ

第三十條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 町村條例及規則ヲ設ケ並改正スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、町村稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
- 六 町村有不動産ノ賣買交換讓受讓渡並質入書入ヲ爲ス事
- 七 基本財産ノ處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村住民及公民タル權利ノ有無、選舉權及被選舉權ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及町村會議員選舉ノ効力(第二十九條)ニ關スル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴願中町村住民及公民タル權利ノ有無並選舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得
本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ
選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村
助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ
故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲スコトヲ得

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求ア
ルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク
ノ外少クモ開會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ
議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 町村會議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ
若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村會ノ
議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村會ニ
代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲
シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得
ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議
長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキト
キハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ
議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擴斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ
議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ
記録セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ
町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其緣故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ認可ヲ得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラヌ郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在

ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ亦同シ

第五十六條 町村ノ情況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有級吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ
再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス
收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ

得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第一百十四條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラレハコトヲ得
町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三 町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事

五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ八

民ト商議スル事

八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得
助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

九百一十七號(第五十七號) 九百一十八號(第五十八號) 九百一十九號(第五十九號) 九百二十號(第六十號) 九百二十一號(第六十一號) 九百二十二號(第六十二號) 九百二十三號(第六十三號) 九百二十四號(第六十四號) 九百二十五號(第六十五號) 九百二十六號(第六十六號) 九百二十七號(第六十七號) 九百二十八號(第六十八號) 九百二十九號(第六十九號) 九百三十號(第七十號) 九百三十一號(第七十一號) 九百三十二號(第七十二號) 九百三十三號(第七十三號) 九百三十四號(第七十四號) 九百三十五號(第七十五號) 九百三十六號(第七十六號) 九百三十七號(第七十七號) 九百三十八號(第七十八號) 九百三十九號(第七十九號) 九百四十號(第八十號) 九百四十一號(第八十一號) 九百四十二號(第八十二號) 九百四十三號(第八十三號) 九百四十四號(第八十四號) 九百四十五號(第八十五號) 九百四十六號(第八十六號) 九百四十七號(第八十七號) 九百四十八號(第八十八號) 九百四十九號(第八十九號) 九百五十號(第九十號) 九百五十一號(第九十一號) 九百五十二號(第九十二號) 九百五十三號(第九十三號) 九百五十四號(第九十四號) 九百五十五號(第九十五號) 九百五十六號(第九十六號) 九百五十七號(第九十七號) 九百五十八號(第九十八號) 九百五十九號(第九十九號) 九百六十號(第一百號) 九百六十一號(第一百零一號) 九百六十二號(第一百零二號) 九百六十三號(第一百零三號) 九百六十四號(第一百零四號) 九百六十五號(第一百零五號) 九百六十六號(第一百零六號) 九百六十七號(第一百零七號) 九百六十八號(第一百零八號) 九百六十九號(第一百零九號) 九百七十號(第一百一十號) 九百七十一號(第一百一十一號) 九百七十二號(第一百一十二號) 九百七十三號(第一百一十三號) 九百七十四號(第一百一十四號) 九百七十五號(第一百一十五號) 九百七十六號(第一百一十六號) 九百七十七號(第一百一十七號) 九百七十八號(第一百一十八號) 九百七十九號(第一百一十九號) 九百八十號(第一百二十號) 九百八十一號(第一百二十一號) 九百八十二號(第一百二十二號) 九百八十三號(第一百二十三號) 九百八十四號(第一百二十四號) 九百八十五號(第一百二十五號) 九百八十六號(第一百二十六號) 九百八十七號(第一百二十七號) 九百八十八號(第一百二十八號) 九百八十九號(第一百二十九號) 九百九十號(第一百三十號) 九百九十一號(第一百三十一號) 九百九十二號(第一百三十二號) 九百九十三號(第一百三十三號) 九百九十四號(第一百三十四號) 九百九十五號(第一百三十五號) 九百九十六號(第一百三十六號) 九百九十七號(第一百三十七號) 九百九十八號(第一百三十八號) 九百九十九號(第一百三十九號) 一千號(第一百四十號)

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條 有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可ラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキ

ハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財產ノ管理

第一款 町村有財產及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財產ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財產ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵

收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス
第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十二條、第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物
件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十二條、第八十四條)
ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 町村有財產ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可
シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會
ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ
依テ賦課セラル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財產ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)並科料、過怠金其他法律勅令
ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村稅(第九十條)及
夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數箇人ノ爲メニスル事業ニ付使
用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ
一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常
例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵
收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條)特別稅(第九十
條第一項第二)及従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニ
ハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以
内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三箇月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在
ノ初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘヌ又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地
家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其
所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官
設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ
納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入

スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 敷市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課税ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得税法第三條ニ掲クル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村税ヲ免除ス

- 一 政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限り免税スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村税ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數箇人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ

負擔ス可シ但其一部ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條 町村税ハ納税義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免税理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徴收ス可シ

會計年度中ニ於テ納税義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納税者ヨリ之ヲ町村長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ従前ノ税ヲ徴收スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納税者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及税品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村税ヲ準率ト爲シ且ツ之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條 町村ニ於テ徴收スル使用料、手数料(第八十九條)町村税(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徴收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

納税者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納税延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越エル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス
第百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所
有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條 町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ町村長ニ申立
ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノト
ス

第百五條 町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル
訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事
會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已
ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加
スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ
方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年
以内ニ還了ス可シ

定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收
入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歲入出豫算及決算

第百七條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ
歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ
以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出
ス可シ

第百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スル
コトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受
ケメシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途
ニ充ツルコトヲ得ス

第百十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ
交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百二

十五條ヨリ第二百二十七條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令
第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クモ一回臨時檢査ヲ爲スコシ
例月檢査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付スコシ第六十二條第六項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出スコシ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スコシ

第百十三條 決算報告ヲ爲スルハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス
第五章 町村内各部ノ行政

第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ

財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理スコシ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別スコシ

第六章 町村組合
第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定スコシ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定スコシ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督
第百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ

第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第二百十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラズ

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス 訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第二百十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第二百十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二百十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 町村條例ヲ設ケ並改正スル事
二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ
第二百十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス
- 二 町村特別税並使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事
- 四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事
- 五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
 - 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
 - 三 町村有不動産ノ賣却讓與並賃入書入ヲ爲ス事
 - 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
 - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
 - 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事
 - 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
 - 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
 - 九 第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長助役委員區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

- 一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 三 本條第一項ニ掲職スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス
- 總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退職料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス
- 四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得
第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第三百十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ
第三百十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ
第三百十二條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セズ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム
第三百十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ
第三百十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其他ノ習慣ニ從フ

第三百十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第三百十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第三百十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三百十八條 明治九年十月第三百十號布告各區町村金穀公借共有物取扱、土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第三百十九條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

〔一〕市制町村制理由書ヲ頒布ス
明治二十一年四月二十五日
號外

市制町村制理由

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜キニ從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ツ地方自治ノ區ヲ造成セサル可カラズ地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ爲シ民法民法ノ二者ニ於テ共ニ一人民ト權利ヲ同クシ之カ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法制ノ定ム

ル所ニ依テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意思ヲ表發シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス故ニ自治區ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ授受買賣シ他人ト契約ヲ結ビ權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區域内ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ統制ノ下ニ於テ其義務ヲ盡サハルヲ得ス故ニ國ハ法律ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ設ケ常ニ之ヲ監督ス可キモノトス

國內ノ人民各其自治ノ團結ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機軸ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントモハ地方ノ區畫ヲ以テ自治ノ機軸ト爲シ以テ其部内ノ利害ヲ負擔セシメサル可カラズ

現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリ區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖モ未タ完全ナル自治ノ制アルヲ見ス郡ノ如キハ全ク行政ノ區畫タルニ過キス府縣ハ素ト行政ノ區畫ニシテ幾分力自治ノ制ヲ兼テ有セルカ如シト雖モ是亦全ク自治ノ制アリト謂フ可カラス今前述ノ理由ニ依リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナル自治體ト爲スヲ必要ナリトス即府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體ト爲サントス此階級ヲ設クルハ分權ノ制ヲ施スニ於テモ亦緊要ナリトス蓋自治區ニハ其自治體共同ノ事務ヲ任ス可キノミナラス一般ノ行政ニ屬スル事ト雖モ全國ノ統治ニ必要ニシテ官府自ラ處理スヘキモノヲ除クノ外之ヲ地方ニ分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町村ノ力ニ堪フル者ハ之ヲ其負擔トシ其力ニ堪ヘサル者ハ之ヲ郡ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者ハ之ヲ府縣ノ負擔トス可シ是階級ノ重複スルヲ厭ハスシテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ

維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其職權アリト雖モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁雜ヲ省キ併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ノ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ舉グルヲ得可ク人民ハ自治ノ責任ヲ分チ以テ専ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ル可シ蓋人民參政ノ思想發達スルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ立ツルノ根源ナリ

故ニ分權ノ主義ニ依リ行政事務ヲ地方ニ分任シ國民ヲシテ共同ノ事務ヲ負擔セシメ以テ自治ノ實ヲ全カラシメントス

ルニハ技術専門ノ職若クハ常職トシテ任ス可キ職務ヲ除クノ外概テ地方ノ人民ヲシテ名譽ノ爲メ無給ニシテ其職ヲ執ラシムルヲ要ス而シテ之ヲ擔任スルハ其地方ノ人民ノ義務ト爲ス是國民タル者國ニ盡スル本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則ヲ同クシ更ニ一步ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ普ク此義務ヲ帶ハシムルトキハ其任又輕シト爲サズ故ニ一朝ニシテ此制ヲ實行セントスルハ頗ル難事ニ屬スト雖モ其目的タル國家永遠ノ計ニ在リテ效果ヲ速成二期セス漸次參政ノ道ヲ擴張シテ公務ニ練熟セシメントスルニ在リ是ヲ以テ力メテ多ク地方ノ名望アル者ヲ舉ケテ此任ニ當ラシメ其地位ヲ高クシ待遇ヲ厚クシ無用ノ勞費ヲ負ハシメス倦怠ノ念ヲ生セサラシムルトキハ漸ク其責任ノ重キヲ知リ參政ノ名譽タルヲ辨スルニ至ラントス且本邦舊來ノ制ヲ考フルニ無給職ニシテ町村ノ事務ニ任スルノ例アリ各地方ノ習慣固ヨリ一定ナルニ非ス且維新後數次ノ變革ニ依テ頗ル此習慣ヲ破リタリト雖モ今日ニ及テ之ヲ變用スルコト猶難カラサル可シ是此制ヲ實施スルニ方テ多少ノ困難アルニ拘ラス漸次其目的ヲ達センコトヲ期シテ疑ハサル所以ナリ

然レトモ他ノ一方ヨリ之ヲ見ルトキハ又地方ノ情況ニ依リ多少ノ酌量ヲ加ヘサルヲ得サルモノアリ是ヲ以テ町村長ハ公選ト爲スト雖モ其選舉宜キヲ得サルトキハ臨時官選ヲ許シ或ハ官吏ヲ派遣シテ其事務ヲ執ラシムルノ例アリ又區嶼ノ地其他特別ノ事情アリテ此制ヲ實施シ難キ地方ニハ之ヲ行ハサルヲ許スノ例アリ(町村制第六十一條第百三十二條第百三十三條)其他十分ニ實地活用ノ方ヲ與ヘルハ各地ノ實況ニ照シテ之ニ應スルノ便アルヲ情ス固ヨリ此等ノ法令ハ人民ノ情態ニ依リ智識ノ度ニ應シテ宜キヲ取ラサルヲ得ス徒ニ自治ノ理論ニ據テ俄ニ其完備ヲ求ムルカ如キハ立法者ノ慎重ヲ加フ可キ所ナリトス是本制多少ノ斟酌ナキヲ得サル所以ナリ

本制ヲ施行スルニ付テハ漸ク以テ郡府縣ノ制度ノ改正ニ及ハサルヲ得サルモノアリ今其概略ヲ舉グレハ郡ニ郡長ヲ置キ府縣ニ府縣知事ヲ置キ其選任組織等固ヨリ舊ノ如クシテ之ヲ改メスト雖モ府縣會ノ外新ニ郡會ヲ開キ府縣郡ニ各參事會設ケケサルヲ得ス然レトモ是等ノ事ハ府縣郡制ノ制定アルヲ待テ始メテ定マル可キ事ニシテ今只之ヲ以テ本制ノ參考ニ供スルノミ

本制ニ制定スル市町村ハ共ニ最下級ノ自治體ニシテ市ト云ヒ町村ト云ヒ都鄙ノ別ニ依テ其名ヲ異ニスルニ過キス其制

度ヲ立ツルノ原質ニ於テハ彼此相異ナル所ナシ元來町ト村トハ人民生計ノ情態ニ於テ其趣ヲ同クセサルモノアリテ細
 カニ之ヲ論スレハ均一ノ標準ニ依リ難キモノナキニ非スト雖モ本邦現令ノ狀況ヲ察シ舊來ノ慣習ニ依テ之ヲ考フルニ
 都會囂溷ノ地ヲ除クノ外宿驛ト稱シ町ト稱スルモノ施政ノ大體ニ於テ村落ト異同アルコトナシ故ニ今之ヲ同一制度ノ
 下ニ立タシメントス其施政ノ細目ニ至テハ或ハ多少ノ差異ヲ見ルコトアルヘシト雖モ此等ハ制度ノ範圍内ニ於テ執行
 者ノ處分斟酌宜キヲ得ルト否トニ在ル可キモノトス然レトモ都會ノ地ニ至テハ大人情風俗ヲ異ニシ經濟上自ラ差別
 アリ故ニ之ヲ分離シテ別ニ市制ヲ立テ機關ノ組織及行政監督ノ例ヲ異ニセリ是固ヨリ町村制ト其性質ヲ異ニスルニ非
 ス其市民ノ便益ト實際ノ必要トニ出テ然ラサルヲ得サルナリ即現行ノ區制ニ繼續スル所ノモノナリト雖モ從來ノ區ハ
 郡ノ疆域ヲ離レシテ行政上別ニ吏員ヲ置キ事務ヲ處理スルニ過キサリシモ今改メテ獨立分離セシメ從來區ノ下ニ町
 アリシモノ之ヲ改メテ市ヲ最下級ノ自治體ト爲サントス而シテ三府市街ノ如キハ其情況又他ノ都會ノ地ト同シカラサル
 モノアルヲ以テ市制中機關ノ組織等ニ於テ二三ノ特例ヲ設クルモノアリ今此市制ヲ施行セントスルモノハ三府其他
 口凡二萬五千以上ノ市街地ニ在リトス尤郡制制定ノ時ニ至テ其要件ヲ確定スルコトアル可シト雖モ今内務大臣ノ定ム
 ル所ニ從テ之ヲ施行セントス區ノ名稱ヲ改メテ市ト爲スハ三府ノ如キ一府内ノ區ト混同スルヲ避クルナリ町區ハ通シ
 テ其組織ヲ同ス可キハ前述ノ如シト雖モ其大小所狹ニ依リ又ハ貧富繁閑ニ依リテ自ラ事情ヲ異ニスルモノナキニ非ス
 故ニ或ハ一定ノ例規ヲ適用シ難キモノアリ是亦酌量ヲ加ヘ法律ノ範圍ヲ廣クシテ地方ノ便宜ヲ與ヘントスルナリ(町村
 制第十一條第十四條第二十五條第三十一條第五十二條第五十六條第六十三條第六十四條第六百三十三條)

市制町村制第一章 總則

凡市町村ハ他ノ自治體ト同ク二箇ノ元素ヲ存セサル可カラス即チ疆土ト人民ト是ナリ此二者其一ヲ缺クトキハ市町村
 ノ自治體ヲ爲スニ足ラサルナリ而シテ市町村ノ制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ或ル界限内ニ在テ市町村ニ自主ノ權
 ヲ付與スルモノトス是ヲ市町村ノ基礎トス

第一款ハ市制町村制ヲ施行スルノ地ヲ定メ(市制町村制第一條)法律上市町村ノ性質ヲ明ニシ(市制町村制第二條)次テ

第一元素タル疆土ニ關スル條件ヲ定ム(市制町村制自第三條至第五條)
 第二款ハ第二元素ニ關スル條件在民權公民權ノ得喪及在民權公民權ヨリ生スル權利義務ヲ規定ス(市制町村制自第六條
 至第九條)

第三款ハ市町村ニ付與スル自主權ノ範圍ヲ示ス(市制町村制第十條)

第一款 市町村及其區域

市町村ノ區域ハ一方ニ在テハ國土分盡ノ最下級ニシテ即國ノ行政區畫タリ一方ニ在テハ獨立シタル自治體ノ疆土タリ
 其疆土ハ自治體カ公法上ノ權利ヲ執行シ義務ヲ履行スルノ區域ナリ
 故ニ市町村ノ區域ハ從來ノ成立ヲ存シテ之ヲ變更セサルヲ以テ原則トス然レトモ町村ノ力貧弱ニシテ其負擔ニ堪ヘス
 自ラ獨立シテ其本分ヲ盡スコト能ハサルモノアリ是其町村自己ノ不利タルノミナラス國ノ公益ニ非サルナリ是ヲ以テ
 有力ノ町村ヲ造成シ維持スルハ國ノ利害ニ關スル所ニシテ町村ノ廢置分合若クハ區域ノ變更等ニ付キ國ノ干渉ヲ要ス
 ルコト明ナリ固ヨリ關係アル土地ノ所有主及自治區ヲシテ利害ノ關スル所ニ依テ各其意見ヲ達スルノ機會ヲ得セシメ
 其意見一般ノ公益ヲ害セサル限リハ之ヲ採用セサル可カラス尤他ノ一方ヨリ論スルトキハ其關係者タルモノハ動モ
 スレハ自己ノ利害ニ偏シ永遠ノ得失ヲ顧サルカ如キコトアルヲ免レシ故ニ一ニ其承諾ニ依テ決スルコトヲ得ス假令其
 承諾ナキモノ之ヲ斷行スルノ權力アルヲ要ス然レトモ此等ノ處置タルヤ地方ノ情況ニ通曉スルヲ要シ且公平ヲ示サンカ
 爲メニ高等自治區參事會ノ議決ニ任スルヲ至當トス(市制町村制第四條)
 本制ハ町村ノ分合ニ就テ詳細ナル規則ヲ設ケ各各地ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地ヲ存スルナリ唯十分ノ資力ヲ有セサル町
 村ハ比隣相合併ス可キノ例ヲ設ク此ノ如キ町村ハ獨立ヲ有タシムルコトヲ得サルヲ以テ假令其承諾ナキモ他ノ町村ニ
 合併シ又ハ收領相合シテ新町村ヲ造成セサル可カラス固ヨリ本制ニ定ムルカ如ク各市町村從前ノ區域ヲ變更セサルハ
 其原則ナリト雖モ現令各町村ノ大半ハ狹小ニ過キ本制ニ據テ獨立町村タル資格ヲ有スルヲ得サルモノ蓋少カラス故ニ
 合併ノ處分ヲ爲スモ亦已ムヲ得サル所ナリ然レトモ分合ノ例規ハ詳ニ之ヲ法律ニ制定セシ其緩急ヲ行政廳ノ見ル所ニ

任スルモノハ各地ノ地形人情及古來ノ沿革ヲ參酌スルノ自由ヲ得セシメントスルニ在リ若シ其實行ニ方テ執行者ノ標準ヲ定ムルカ如キハ時ニ臨テ訓令ヲ發スルコトアル可シ之ヲ要スルニ町村ハ舊來ノ區域ヲ存シテ改メサルヲ原則トシ資力ナキモノハ之ヲ合併シテ以テ法律ノ窺望スル有力ノ町村ヲ造成センコトヲ期スルニ在リ又合併ノ爲メニ其區域廣闊ニ過キテ地形人情ノ自然ヲ失ヒ共有物ノ區域ヲ混シ其使用ノ便ヲ害スル等ノ事ナキヲ要ス然レモ今日ニ在テハ事情已ムヲ得サルモノアリテ十全ノ合併ヲ爲スコトヲ得ス又ハ合併ヲ以テ不便ト爲スカ如キコトアルヘシ故ニ町村制第百十六條ニ於テ町村組合ヲ設クルノ便法ヲ存セリ其組合町村ハ各獨立ヲ保チ而シテ共同シテ一定ノ事務ヲ處辨スルモノナリ其共同事務ノ範圍等ハ實地ノ需要ニ依テ便宜之ヲ釐定スルニ任ス

凡區域ヲ變更スルニ方テハ必關係者ノ協議ヲ以テ財產處分又ハ費用ノ分擔ヲ定ムルヲ要ス是亦一定ノ例規ヲ示サス蓋此等ノ處分ハ強テ法理ニ泥マス專ラ情義ニ依ルヲ以テ檢當トス但其專斷偏私ノ弊ナカラシメンガ爲メ其處分ヲ參事會ニ任セリ而シテ其參事會ノ議決ニ對シテハ司法ノ裁判ヲ仰クヲ許サス

市町村境界ノ爭論ハ公法上ノ權利ノ廣狹ニ關スルヲ以テ公法ニ屬セリ故ニ此類ノ爭論ハ司法裁判ヲ求ムルヲ許サスシテ參事會ノ裁決ニ付シ終審ニ於テハ行政裁判所ノ判決ニ任セリ(市制町村制第五條)若シ之ニ反シテ民法上ノ所有權若クハ使用權ニ關スル爭論ハ固ヨリ司法裁判ニ屬スヘキヲ以テ其爭論者ノ一方若クハ雙方トモ市町村ニ係ルト雖モ參事會ノ裁決ニ付セス行政裁判ニ屬セサルハ勿論ナリ

第二款 市町村住民籍及公民權

町村ト人民トノ關係ハ現行ノ法ニ於テ本籍寄留ノ別アリ現實ノ居住地ハ必シモ本籍地ナラス本籍ハ殆ント處名ヲ存スルニ過キサルモノアリ而シテ府縣會議員ノ選舉ノ如キ公法上ノ權利ハ本籍ニ屬シテ寄留地ニ屬セサルモノアリ甚ク事實ト相適セス蓋公法上ノ權利ヲ行フハ現實ノ利害ニ基ク可クシテ處名ニ依ル可カラズ故ニ本制ニ於テハ現行本籍寄留ノ法ニ依ラス凡市町村內ニ居住ヲ定ムル者ハ即市町村住民ニシテ本籍寄留ノ別アルコトナシ尤市町村住民籍(即屬籍)ノ例規ハ別ニ法令ヲ以テ之ヲ制定センコトヲ期ス故ニ茲ニ之ヲ詳述セスト雖モ要スルニ本制ノ行ハルハ日ヨリ人民ト町

村トノ關係即町村ノ屬籍ニ付テハ從來本籍寄留ノ例ヲ一變スルモノナリ但戶籍上ノ事即戶主家族ノ關係ニ於テハ之ト相關スルコトナク從前ノ戶籍法ヲ存シテ之ヲ變更セサルナリ

市町村住民ノ權利ハ市町村ノ營造物ヲ共用シ其財產所得ノ使用ニ參與スルニ在リ但法律及市町村ノ條例規則ニ據ル可キハ固ヨリ言フ俟タス其義務ハ市町村ノ負擔ヲ分任スルニ在リ其義務ノ生スルハ即市町村ニ居住ヲ定メ住民ト爲リシ時ニ起ル但市町村內ニ居住ヲ定メス一時滞在スル者即市町村住民ニ非サル者ト雖モ其滞在ノ久キニ至テハ市町村ノ負擔ニ任セシムルヲ當然トス(市制町村制第九十二條)

故ニ身屬旅ニ在ル者ト一時ノ滞在者トヲ除ク外凡市町村內ニ居住ヲ定ムル者ハ即皆市町村住民タリ軍人官吏ノ如キモ亦皆然リ然リト雖モ軍人官吏ハ公民權ヲ行ヒ及市町村ノ負擔ヲ分任スル上ニ於テ例外ニ置クヲ必要ト爲スノ條件アリ即市制第八條第九條第十二條第十五條第五十五條第九十六條町制第八條第九條第十二條第十五條第五十三條第九十六條ニ定ムル所ノ如シ又皇族ハ市町村ノ屬籍外タルコト勿論ナレハ敢テ本制ニ掲載セス

市町村住民中公務ニ參與スルノ權アリ又ハ義務アル者ハ別ニ要件ヲ定メテ其資格ニ適フ者ニ限ル之ヲ公民トス(市制町村制第七條)

公民ハ住民中ニ在テ特別ノ權利ヲ有シ重大ノ負擔ヲ帶ヒタル者トス其資格ノ要件ハ自ラ民風風俗ニ從ヒ各地方ノ情況ヲ酌シ以テ其宜ヲ制スルヲ便ナリトス故ニ市町村ノ自主ノ權ニ任テ適宜之ヲ制定セシム可キカ如シト雖モ又一方ヨリ考フレハ各地方區々ニ出テ權利上公平ヲ失スルノ恐ナキ能ハス各國ノ例ヲ案スルニ是亦異同アリテ一定セス今本制ハ本邦ノ民度情體ヲ察シ併セテ各國ノ制ヲ參酌シ之ヲ制定セリ

各國ノ例ヲ案スルニ大略ニ類アリ一ハ則市町村住民ニシテ法律上ノ要件ニ適スルトキハ直ニ公民トナルノ法トシ一ハ則特別ノ手續ニ依テ公民權ヲ得ルノ法トス今第一ノ例ヲ以テ適當ト爲ス故ニ本制ハ市町村住民中市制町村制第七條ニ規定シタル要件ニ適スルトキハ直ニ公民タルヲ得ルモノトス

外國人及公權ヲ有セサル者ニハ公民權ヲ與フ可カラサルコト疑ヲ容レス本制ニ於テハ婦人及獨立セサル者モ亦皆公民

第三類 第二章 郡區市町村

外ニ置クヲ通例トス但市制町村制第十二條第二十四條ニ於テハ之ニ選舉權ヲ與フルノ特例アリ官府其他總テ法人タル者モ亦之ニ準ス其他ハ一般ニ二年以來市制町村制第七條ニ列記シタル要件ヲ有スルヲ要ス然ルニ一般ニ二年以上ノ制限アルハ或ハ不公平ヲ生スルノ恐アリト雖モ市町村會ニ於テ之ヲ特免スルノ權利ヲ有スルヲ以テ其甚シキニ至ラサル可シ其他多額ノ納稅者ニ就テモ亦之ニ類スル特例ヲ設ク(市制町村制第十二條)甲市町村ノ住民ニシテ市町村内ニ土地ヲ所有シ若クハ營業ヲ爲スカ爲メニ市制町村制第九十三條ニ從ヒ市町村稅ヲ負擔スル者アリ此ノ如キ者ニハ固ヨリ完全ノ公民權ヲ與ヘスト雖モ市制町村制第十二條ニ從テ特ニ選舉權ヲ行ハシムルモノトス蓋本制ニ定ムル要件中納稅額ノ制限ヲ設クル所以ハ市町村ヲ以テ其盛衰ニ利害ノ關係ヲ有セサル無智無產ノ小民ニ放任スルコトヲ欲セサルヲ爲メナリ然レモ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資產者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絶クンコトヲ期スルハ此選舉法ノ他ニ優レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以來市町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二回以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準ト爲シ市制町村制第十二條第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方異同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件アル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ喪フ可シ(市制町村制第九條)即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

一 國民籍ヲ失フ事

二 公權ヲ失フ事

三 市町村内ニ居住セサル事即任民權ヲ失フ事

四 公費ヲ以テ救助ヲ受クル事

五 獨立ヲ失フ事即一月ヲ禁フルコトヲ止メ又ハ治廳ノ禁ヲ受クル事

六 市町村負擔ノ分任ヲ止ムル事

七 市町村内ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅賦課以上ヲ納メサル事

租稅滯納處分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セラル、モノナリ其他市制町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定メタル事由ノ存スル間之ヲ執行ヲ止ムルニ在リ

公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選舉被選舉ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任ス可キ義務ヲ負フモノトス此義務ハ渾テ法律上ノ義務ニ於ケルカ如ク強制シテ之ヲ履行セシメサル可カラズ固ヨリ直接ニ之ヲ強制スルヲ得スト雖モ故ナク名譽職ヲ拒辭シ退職シ又ハ實際職務セサル者ヲ懲罰スルニ公務ニ參與スルノ權ヲ停止シ並市町村稅ヲ增課スルノ例アルハ即開接ノ裁制ヲ存スル所以ナリ(市制町村制第八條)

其制裁ヲ行フノ權ハ之ヲ市町村會ニ付與シ任民權公民權ノ有無等ニ關スル爭論モ亦之ヲ市町村會ノ議決ニ任シ(市制第三十五條)町村制第三十七條之ニ關スル訴訟ハ參事會ノ議決ニ付シ行政裁判所ニ出訴スルヲ許シテ以テ其權利ヲ保護スルハ皆本制大體ノ精神ヨリ出ツル所ナリ

第三款 自主ノ權

自主ノ權トハ市町村等ノ自治體ニ於テ其内部ノ事務ヲ整理スルカ爲メニ法規ヲ立ツルノ權利ヲ謂フ所謂自治ノ義ト混同ス可カラズ自治トハ國ノ法律ニ遵依シ名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ謂フ元來法規ヲ立ツルハ國權ニ屬スルモノナリト雖モ或ル範圍内ニ於テ之ヲ自治區ニ付與スル所以ノモノハ一國ノ立法權ヲ以テ周ク地方ノ情況ヲ酌量シ其特殊ノ需要ニ應スルコト能ハサルニ因ル固ヨリ市町村ノ法規ハ其市町村ノ區域内ニ限リ且國ノ法律ヲ以テ其自主權ニ任シタル事件ニ限リ效力アルモノトス其委任ノ範圍ノ如キハ古來ノ沿革及人民政治上ノ教育ノ度ニ伴隨ス可キモノニシテ其範圍ノ廣狹ニ依テ利害ノ分ル、所立法官タル者最慎マサル可カラズ今本邦各地方ノ情況ヲ裁酌シ自主ノ權ヲ適實ニ施行ス可キノ望ナキモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ法律ヲ以テ模範ヲ示シ猶地方ノ情況ニ依リ自主ノ權ヲ以テ之ヲ增

第三類 第二章 郡區市町村

減削的スルヲ許サントス

市町村ノ自主ノ權ヲ以テ設クル所ノ法規ニ條例及規則ノ別アリ規則トハ市町村ノ營造物(瓦斯局水道病院ノ類)ノ組織及其使用法ヲ規定スルモノヲ謂ヒ條例トハ市町村ノ組織又ハ市町村ト其住民トノ關係即市町村ノ組織中ニ在テ權利義務ヲ規定スルモノヲ謂フ其法律命令ニ抵觸スルヲ得サルハ二者共ニ相同シ但條例ニ在テハ此外猶制限アリ即法律ニ明文ヲ掲ケテ特例ヲ設クルコトヲ許シ或ハ法律ノ明條ナクシテ自主ノ權ヲ許シタル場合ニ限ルモノトス明文ヲ以テ條例ヲ設クルコトヲ許シタル場合ヲ列舉スレハ市制ニ在テハ第十一條第十四條第四十九條第六十一條第六十九條第七十三條第七十七條第八十四條第九十一條第九十七條第一百零三條第一百零九條第一百一十一條第一百一十三條第一百一十五條第一百一十七條第一百一十九條第一百二十一條第一百二十三條第一百二十五條第一及第二百二十七條第一二條ノ許可ヲ受ク可キモノトス但市制第三十一條及第四百二十四條ニ於テハ特例トシテ之ヲ郡縣議會ノ議決ニ委任セリ是町村會ニ於テ此議決ヲ爲スヲ得ヌ又其議決ノ偏頗ニ失スルノ恐アルヲ以テナリ又本制施行ノ當初未タ市町村會ヲ召集セサル間ニ於テ條例ヲ以テ規定ス可キ事項ノ處分法ハ市制第二百二十八條及町村制第三百三十一條ニ依ル其他條例規則ヲ論セス公布ヲ竣テ初メテ他人ニ對シテ效力ヲ有スルハ一般ノ法理ニ照シテ疑ナキ所ナリ

市制町村制第二章 市會町村會

市町村ハ法人タル者ナレハ之ニ代テ思想ヲ發露シ之ニ代テ業務ヲ行フ所ノ機關ナカル可カラヌ其機關ニ代議ノ機關ト行政ノ機關トノ二者アリ

代議ノ機關トハ即市會町村會ニシテ其沿革ノ詳ナルハ今姑ク措キ往時町村ノ寄合ト稱セシモノニ起リ維新後ニ至テ府

縣會ト同ク各地方ニ町村會ヲ開キタリ然レトモ其法律ヲ以テ制定シタルハ即明治十三年ノ區町村會法ヲ創始トシ其後明治十七年ノ改正ヲ經テ今日ニ及ヘリ然レトモ其法律ハ會議ノ大則ヲ定メタルニ過キスシテ餘ハ之ヲ各地方ノ適宜定ムル所ニ任セタリ又全國ノ町村盡ク之ヲ開設スルニ非ス小町村ノ如キ會議ヲ設ケサルモ亦少シトセス今之ヲ改メテ會議ノ規則ヲ制定スト雖モ猶多少ノ酌量ヲ地方ニ任セ且小町村ノ如キハ代議會ヲ設ケサルヲ許シ代フルニ選舉人ノ總會ヲ以テセリ

第一款 組織及選舉

代議機關ハ完全ナル權利ヲ有セル市町村民ノ選舉ニ出ツルモノトス其組織ノ方法ニ至テハ外國ノ例ヲ參考スルニ各多少ノ異同アリ蓋國ノ情況ニ適合スル完備ノ法ヲ立ツルハ易カラサル所ナリト雖モ今古來ノ沿革時勢人情ヲ考察シ傍ラ外國ノ例ヲ參酌シテ以テ其宜ヲ制定ス其要點左ノ如シ

一 選舉權

選舉權ハ素ヨリ完全ナル權利ヲ有スル公民ニ限リテ之ヲ有ス可シ然ルニ此權利ヲ擴張シ特例トシテ之ヲ公民ナラサル者ニ與フルコトアリ(市制町村制第十二條)是其人ノ利害ニ關スル所最厚ク且市町村稅負擔ノ最重キカ故ナリ此點ハ上ニ之ヲ詳述セリ

二 被選舉權

被選舉權ハ選舉權ヲ有スル者ニ限リテ之ヲ有ス可シト雖モ其市町村ノ公民ニ非サル者ニ至テハ假令選舉權ヲ有スルモ被選舉權ヲ有セス其他被選舉權ノ要件ヲ選舉權ノ要件ニ同クシテ別ニ之カ制限ヲ設ケサルハ適任ノ人物ヲ選擇スルノ區域ヲ徒ニ減縮セザランカ爲メナリ被選舉權ヲ與ヘサル制限ハ或ハ外國ノ例ヲ參酌シテ之ヲ取ルモノアリ或ハ地方ノ情況ニ照シテ已ムヲ得サルモノアリ又本制ニ於テハ無給ノ市町村吏員ニ被選舉權ヲ與ヘタリ市町村ノ行政事務ヲ掌ル名譽職ヲ擔任シ公共事務ニ從事スル者ヲ代議會ニ加ルヲ許スハ穩當ナラサルカ如シト雖モ地方ニ依リテハ多ク適任ノ人ヲ得可カラサルヲ以テナリ行政ト代議ト最利害ノ抵觸シ易キ場合ニ關シテハ市制第三十八條第四十三條第六十六條

第三類 第二章 郡區市町村

第百十二條町村制第四十條、第四十五條、第百十三條等ニ於テ豫メ之ニ處スルノ法ヲ設ケタリ

三 選舉等級

本制ニ於テハ納稅額ニ依テ選舉人ノ等級ヲ立テ選舉權ヲ以テ市町村稅負擔ノ輕重ニ伴隨セシム蓋名譽職ニ任スルハ町
村公民ノ輕カラサル義務ナレハ資産アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論セサルモ其
專ラ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級選舉法ヲ以テ常例トセルハ即此
要旨ニ外ナラス等級選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其長結果アルヲ徵スルニ
足ル本制被選舉權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノハ即此選舉法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セ
ラルノ弊ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリ

各地方ノ狀況ヲ見ルニ都鄙ニ依テ貧富ヲ異ニシ地形ニ依テ産業ニ別アリ故ニ各地ニ通スル一定ノ稅額ヲ設ケテ等級ヲ
分ツコトヲ得ス又單ニ土地ノ所有ヲ以テ選舉權ノ標準ト爲スコトヲ得ス是ヲ以テ等級法ヲ立テント欲スルニハ市町村
内ニ於テ徵收スル市町村制ノ總額ヲ標準トシ各自納稅額ノ多寡ニ依テ其順序ヲ定メ等級ヲ立ツルノ外他ニ良法アルヲ
知ラス然ルニ市ハ通シテ三級トシ町村ハ單ニ二級トセルハ市民ハ戶口多ク貧富ノ階級アルコト町村民ノ等差少キカ如
キニ非サルヲ以テナリ(市制町村制第十三條)但町村ニシテ特別ノ事情アルモノアリ例ヘハ選舉人寡少ニシテ其稅額ノ
等差モ亦少ク或ハ一二ノ納稅者アリテ非常ニ多額ノ稅ヲ納ムルカ或ハ大町村ニ於テ其納稅者ノ等差極メテ甚キノ類ニ
シテ二級選舉法ヲ適當トセサル場合モアル可シ此場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ三級選舉法ヲ設クルコトアル可ク或ハ
等級ヲ設ケス或ハ更ニ他ノ方法ヲ立ツルコトヲ得セシメントス尤ニ二級若クハ三級選舉法ヲ以テ常例ト爲スカ故ニ不得
已ノ事情アリテ許可ヲ受クルニ非サレハ此特別ヲ設クルコトヲ得サル可シ

被選舉人ハ其區内級内ノ者ニ限ラスト爲スハ(市制第十三條第十四條)町村制第十三條)市町村會ノ議員ハ全市町村ノ代
表者タルノ原則ヨリ出ツルモノニシテ是亦實際ノ便宜トスル所ナリ

四 選舉ノ手續

選舉ノ事務タル其關スル所輕カラサルヲ以テ其細則ニ至ルマテ法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要ス其單ニ手續ニ屬スル事
項ト雖モカテ法律ニ之ヲ制定スル所以ノモノハ選舉ノ公平確實ナルコトヲ保シ行政廳ノ干渉ヲ防キ或ハ干渉ノ疑ヲ
避ケンカ爲メナリ其順序大略左ノ如シ

選舉ハ通例三年毎ニ之ヲ行フ之ヲ定期選舉トシ議員ノ半數ヲ改選スルハ事務ニ熟練セル議員ヲ存續セ
シメンカ爲メナリ但解散ノ場合ハ此ノ如クスルヲ得ス又此法律施行ノ當初ニ於テ選舉セラレタル議員ハ初回ノ改選ニ
方リ抽籤ヲ以テ半數ヲ退任セシムルニ依リ其半數ハ三年間在職スルモノトス此二箇ノ場合ヲ除キ議員ハ總テ六年間在
職スルモノトス若シ議員任期中ニ死亡シ若クハ退職スルトキハ直ニ補員ヲ選舉シ前任者ノ任期ヲ襲カシメサル可カ
ラス之ヲ補關選舉トス然レトモ原選舉ヲ行フトキハ其煩ニ堪サルカ故ニ補關選舉ハ定期選舉ヲ待テ之ト同時ニ行フヲ
通例トス假令一二ノ關員アルモ事務ニ支障ナカルヘキヲ以テナリ然レモ若シ多數ノ議員退任スル等已ムヲ得ス補關員
ヲ選舉スルノ必要アルトキハ市制町村制第十七條ニ於テ之レカ便法ヲ設ク

選舉ヲ爲スノ準備ニ屬スル事ハ之ヲ行政機關即町村長若クハ市長及市參事會ニ委任セリ而シテ其事務ハ選舉ノ基礎ト
ル選舉名簿ヲ調製スルヲ以テ第一トス本制ハ所謂承續名簿ノ法ニ依ラス選舉ヲ行フ毎ニ名簿ヲ新ニスルノ法ヲ取レリ
(市制町村制第十八條)其調製シタル名簿ハ選舉前數日間關係者ノ縱覽ニ供シ異議アル者ハ市町村長ニ申立テ又ハ訴願
若クハ行政訴訟ノ手續(市制第三十五條)町村制第三十七條)ヲ以テ誤ヲ正ス可キ便利ヲ與ヘタリ此名簿ノ調製ハ選舉ヨ
リ數日前ニ終結ス可キカ故ニ其結了ノ時ニ行ヒタル裁決ハ之ヲ執行ス可シト雖モ各訴願ノ確定終局ニ至ル迄再日ヲ
曠クスルヲ得ス選舉ノ期日ニ至レハ其訴願ニ拘ラス之ヲ執行ス若シ名簿ニ錯誤アルカ爲メ選舉ノ無効ニ歸スルコトア
レハ更ニ之ヲ申立ツルコトヲ得可シ又被選舉人當選ヲ辭シ或ハ選舉ヲ無効ナリト斷定セラレタル時ト雖モ更ニ名簿ヲ
調製スルヲ要セス判決ニ準據シテ舊名簿ヲ訂正シタル上之ヲ用フルモノトシ之カ爲メ更ニ關係人ノ縱覽ニ供シテ正
誤申立ノ時間ヲ與フルニアラス唯名簿全體ノ不正ナルカ爲メ全選舉ヲ無効ナリトナシタル時ニ至テハ新簿ヲ調製スル
コト已ムヲ得サルナリ

選舉ノ期日ハ町村長市參事會之ヲ定ム本制ニ據レハ選舉人ヲ召喚スルニハ公告ヲ以テ足レリトスト雖モ實際市町村ノ便宜ニ依リ各選舉人ニ對シ特ニ召集狀ヲ送付スルコトアルモ妨ケナシ其他投票時間ヲ定ムルハ市長町村長ニ任シタルヲ以テ市長町村長ハ選舉人ノ多寡及地形等ヲ參酌シテ之ヲ定ム可シ

選舉事務ノ統轄ハ之ヲ自治ノ吏員ニ委任シ(市制町村制第二十條)監督官廳ハ特ニ之ヲ監督ヲ爲ス可キノミ(市制第二十八條)町村制第二十九條)而シテ選舉掛ハ集議體ニ編制セリ選舉掛ハ選舉人代理者ノ許否投票ノ效力等直ニ之ヲ裁決セサルヲ得スシテ此ノ如キハ一個ノ吏員ニ委任スルコトヲ得サルヲ以テナリ固ヨリ選舉掛ニ於テ右等ノ事件ヲ裁決スト雖モ後ニ至リ選舉ノ無效ヲ申立ル者アルトキハ之ヲ裁決スル官廳ニ於テハ右議決ニ拘ラス至當ノ裁決ヲ爲ス可キノトス

選舉會ハ選舉人ニ取リテハ公會ナリト雖モ(市制町村制第二十一條)其選舉ハ全ク秘密投票ノ法ヲ以テス即選舉掛ハ勿論其他何人ニテモ投票者ニ於テ何人ヲ選舉セントスルカヲ知ラシメサルモノトス故ニ選舉ノ際ハ投票ヲ用ヒ票中ニ投票者ノ氏名ヲ記載セス又之ニ關印セシメス封緘シテ之ヲ發出サシム(市制町村制第二十二條)第二十三條)元來公選舉ト秘選舉トノ別アリ其利害得失ニ就テハ互ニ論アリト雖モ今特ニ地方自治區ノ選舉ニ就テ之ヲ考フルニ町村ノ事情タル居民常ニ相密接スルモノナレハ選舉ノ自由ヲ妨ケサランカ爲メニ寧ロ秘密投票ヲ以テ良法ト爲ス而シテ選舉權ヲ有セサル者ノ投票又ハ重複ノ投票ヲ防カンカ爲メニハ選舉人自ラ出頭スルノ例アリ(市制町村制第二十四條)又名簿ニ照シテ之ヲ受クルノ法(市制町村制第二十二條)アリ選舉人自ラ出頭シテ選舉ヲ行フノ例ヲ設クルハ密選舉ノ利害ニ關セサル單ノ勸告ニ依テ之ニ投票ヲ託セントスルカ如キ者ヲ排除シ選舉ノ自由ヲ保護スル所以ナリ但市制町村制第二十四條第二項ニ掲グルモノハ已ムヲ得サルノ特例ナリトス選舉ヲ行フニ下級ヲ先キニシ上級ヲ後ニスルハ(市制町村制第九條)下級ノ選舉人ヲシテ人ヲ擇フニ充分ノ區域ヲ得セシメンカ爲メナリ而シテ先ツ下級ノ選舉ヲ了ルノ後ニ上級ノ選舉ニ着手セシム可シ是一人ニシテ數級ノ選ニ當ルコトヲ防キ且上級ノ者ヲシテ下級ノ選舉ニ當ラサル候補者ヲ選擇スルコトヲ得セシムルモノナリ選舉ノ結果ヲ照スルカ爲メニ選舉錄ヲ製スルノ例(市制第二十六條)町村制第二十七條)アリ

ルハ選舉ノ效力ヲ議決スル證據ヲ備ヘンカ爲メナリ

當選ノ認定ハ議員ノ選舉ニハ比較多數ノ法ヲ取リ(市制第二十五條)町村制第二十六條)市町村吏員ノ選舉ニハ過半数ノ法ヲ用フ(市制第四十四條)町村制第四十六條)元來總テ過半数ヲ以テスルヲ正則トスレトモ事宜ヲ計リテ便法ヲ設ケタルナリ

選舉ノ效力ニ關シ異議ヲ申立ツルノ權利ハ選舉人及市長町村長ノ外公益上ヨリシテ其效力ヲ監査スルカ爲メニ郡長及府縣知事モ亦此權利ヲ有ス選舉人及市長町村長ノ異議アルモノハ市町村會ノ裁決ニ任シ郡長府縣知事ノ異議アルモノハ參事會ノ裁決ニ任シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス是實ニ利害上ノ爭ニアラスシテ權利ノ消長ニ關スレハナリ(市制第二十八條)第三十五條)町村制第二十九條)第三十七條)

一日選舉ヲ有效ト定メ或ハ其效力ニ異議ナクシテ經過シタル後ト雖モ當選者被選舉權ノ要件ヲ選舉ノ當時ニ有セザリシコトヲ發覺シ或ハ其當時有シタル要件ヲ失フコトアル可シ斯ル場合ニ於テハ固ヨリ市制第二十九條)町村制第三十條)ノ結果ヲ生ス可シ其裁決ノ手續ハ市制第三十五條)町村制第三十七條)ニ據ル

五 名譽職

市制町村制第十六條)第二十條)第七十五條)ニ依リ名譽職ヲ置クハ本制大體ノ原則ニ出ツルナリ

第二款 職務權限及處務規程

市會町村會ハ市町村ノ代表者ナリ其權限ハ市町村ノ事務ニ止マリ其他ノ事務ハ從來ノ委任ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依テ特ニ委任スル事項ニ限リテ參與スルモノトス若シ大政ニ論及スル等凡ソ此界限ヲ踰ユルモノハ則法律ニ悖戻スルモノナレハ法律上ノ權力ヲ以テ(市制第六十四條)第二項)第一)第二)第二十條)第六十八條)第二項)第一)第二)二十四條)之ヲ制セサル可カラス其他市制第一百八條)第一百十九條)町村制第二百二十二條)第二百二十三條)ハ皆市會町村會ノ怠慢ヲ防制スルノ權力ナリトス

市會町村會ハ代表機關ト爲スト雖モ(市制第三十條、町村制第三十二條)外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルハ行政機關ノ任トス(市制第六十四條第二項第七、町村制第六十八條第二項第七)即市會町村會ハ専ラ行政機關ニ對シテ市町村ヲ代表スルモノナリ市制第三十一條以下及町村制第三十三條以下ニ列載シタル職務ハ皆此地位ニ依テ生スルモノトス

一 市會町村會ハ條例規則、豫計豫算、決算報告、市町村税賦課法及財産管理上ノ重要事件等ヲ議決ス市制第一百十八條、第一百九條、町村制第二百二十二條、第二百二十三條ノ場合ヲ除クノ外行政機關ハ議會ノ議決ニ依テ方針ヲ取ラサルヲ得ス但其議決上司ノ許可ヲ得可キモノハ市制第二百二十二條ヨリ第二百二十三條ニ至リ及町村制第二百二十五條ヨリ第二百二十七條ニ至ルノ各條ニ依ル

二 市會町村會ノ執行ス可キ選舉ハ職セテ市制第三十七條、第五十一條、第五十八條、第六十條、第六十一條及町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條ニ在リ

三 市會町村會ハ市町村ノ行務ヲ監督スルノ權利ヲ有ス其監督ノ方法ハ書類及計算書ヲ檢閲シ町村長若クハ市參事會ニ對シテ事務報告ヲ要求スルノ類是ナリ此權利ニ對シテ町村長若クハ市參事會ハ之ニ應スルノ義務アリ若シ市會町村會ニ於テ意見アルトキハ之ヲ官廳ニ具狀スルコトヲ得可シ

四 市會町村會ニ於テ官廳ノ諮問ヲ受クルトキハ之ニ對シテ意見ヲ陳述スルハ其義務ナリトス

五

其他市會町村會ハ或場合ニ於テ公法上ノ爭論ニ付始審ノ裁決ヲ爲スノ權アリ(市制第三十五條、町村制第三十七條)市會町村會ノ議員ハ其職務ヲ執行スルニ當テハ法令ヲ遵奉シ其範圍内ニ於テ不羈ノ精神ヲ以テ事ヲ評議ス可シ決シテ

選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可キモノニアラス(市制第三十六條、町村制第三十八條)是固ヨリ法理ニ於テ明ナル所ナリト雖モ議員ノ職務ヲ以テ選舉人ノ委任ニ出ツルモノ、如ク祝儀シ議員ハ選舉人ノ示シタル條件ヲ恪遵ス可キモノト爲スノ誤ヲ來サ、ランカ爲メニ特ニ其明文ヲ掲グルナリ

職務規程ハ市制第三十七條ヨリ第四十七條ニ至リ町村制第三十九條ヨリ第四十九條ニ至ルノ各條ニ於テ之ヲ設ク此條規ハ概テ說明ヲ要セサル可シ只茲ニ一言ス可キハ町村會ハ通例町村長若クハ其代理者タル助役ヲ以テ議長トシ(町村制第三十九條)市會ハ別ニ互選シテ議長ヲ置ク(市制第三十七條)此區別ヲ爲シタル所以ハ町村ニ在テハ町村長及助役ノ外事務ニ熟練スル者多カラスシテ殊ニ議長ノ任ニ堪フル者ハ概テ少ク且一人一個ノ責任ヲ以テ行政ノ全體ニ任スル場合ニ於テハ成ル可ク議員ト密接ノ關係ヲ有セシムルコト必要ナレハナリ町村制第四十四條ノ場合ヲ除クノ外町村長及助役ニシテ議決權ヲ有スルハ其議員ヲ兼ヌル時ニ限ル可シ

市制町村制第三章 市町村行政

代議ト行政トハ各別箇ノ機關ヲ設ケサル可カラサルハ已ニ之ヲ記述シタルカ如シ而シテ町村ノ行政ハ之ヲ町村長一人ニ任シ補助員即助役一名若クハ數名ヲ置キ以テ之ヲ補助セシム市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ任セリ市長ハ其會員ノ一人ニシテ其會ノ事務ヲ統理シ外部ニ對シテ參事會ヲ代表スルノ權ヲ有ス即町村ハ特任制ヲ取リ市ハ集議制ニ依ルモノナリ抑地方ノ自治行政ニハ集議制ヲ以テスルニ若クモノアラス然ルニ獨リ市ニ施シテ之ヲ町村ニ適用セサル所以ノモノハ集議制ハ特任制ニ比シ頗ル錯綜ニ涉ルノ弊アリ而シテ小町村ノ行政ハカメテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルヲ以テナリ且集議制ヲ行ハント欲スレハ名譽職ヲ以テ行政ニ參與ス可キ適任者ヲ多ク求メサルヲ得ス而シテ此事タル今日ノ情況ニテハ都會ノ地ニ非サレハ望ム可カラサレハナリ大町村ニ於テモ亦此集議制ヲ施行ス可キ必要アリヤ否又之ヲ施行シ得可キヤ否ハ姑ク將來ノ變遷ヲ俟テ知ル可キナリ

本制市町村行政ノ條規ハカメテ活用ノ區域ヲ廣クシ以テ各地方ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地アラシメントヲ務メタリ

第三類 第二章 郡區市町村

市町村自ラ之ヲ選任スルヲ當然トス是各國ノ通則ニシテ其效益亦實際ノ經驗ニ著ハル、所ナレハ本制モ亦之ニ倣ヘリ
 (市制第五十一條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條)然レトモ市町村ハ又國ノ一部分ニシテ市町村ノ行政ハ一般ノ施政ニ關係ヲ及ホシ從テ國家ノ利害ニ關セ
 サルコトナシ且市町村及其吏員ニ委任スルニ國政ニ屬スル事務ヲ以テスルコトアリ市制第七十四條町村制第六十九條
 ノ如キ是ナリ市長ノ選任ハ市會ヨリ候補者ヲ推選シ裁可ヲ求ムルノ例アルカ如キモ亦此理由アルニ依ル(市制第五十
 條)但其選任ノ例ヲ異ニスト雖モ市長ハ均ク市ノ機關ニシテ一ノ市吏員ナリ法律上ヨリ其地位ヲ論スルトキハ一面ハ市
 ニ屬シ一面ハ國ニ屬ス猶町村長ノ町村ト國トニ兩屬スルカコトシ此資格ハ選任ノ例ヲ異ニスルカ爲メニ變更スルコト
 ナシ其他樞要ノ市町村吏員即町村長市町村助役ハ收入役ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケシメ其認可ヲ得サルトキハ其選舉ハ無
 效ニ屬スルカ故ニ(市制第五十二條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條)國ノ治安ヲ保持スル上ニ就テハ十分
 ノ權力ヲ有スルヲ得可シ又之ヲ認可スルニ方テ徒ニ其活動ヲ牽制セザランコトヲ欲シ認可ヲ拒ムニ定メ理由ヲ示サ
 ス其地ノ事情ト人物トヲ參酌シテ其認可不認可ヲ決スルヲ得セシメントス其裁決ノ權ハ專ラ地方分權ノ原則ニ準シ之
 ヲ郡長又ハ府縣知事ニ委任セリ然レトモ其公平ヲ失スルノ弊ヲ防カンカ爲メ若クハ偏私ノ弊ヲ免レンカ爲メニ其認可
 ヲ拒マントスルトキハ郡參事會又ハ府縣參事會ノ同意ヲ得ルヲ必要ト爲セリ又已ニ官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ法ヲ設
 クルトキハ其結局ノ處分法ナカル可カラズ即其選舉遂ニ適任ノ人ヲ得シテ已ムヲ得サルトキハ官廳ヨリ其代理者ヲ
 特選シ若クハ官吏ヲ派遣シテ市町村ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得可シ以上ノ例規ニ依リ市町村吏員ノ選舉ヲ以テ之ヲ
 市町村ニ委任スルモ國ノ治安統一ヲ保ツコトニ於テ愛ヲ可キノ弊ナキヲ信ス
 町村ニ於テ吏員ヲ選任スルノ權ハ之ヲ町村會若クハ總會ニ委任シ唯便丁ニ限り之ヲ町村長ニ委任シ(町村制第五十三條
 第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條)市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ委任シ參事會員委員及收入役ノ選定ニ限リ
 之ヲ市會ニ委任セリ(市制第五十一條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條)
 市町村ノ吏員ヲ選任スルニ付テハ固ヨリ法律上ノ要件ヲ恪守セサル可カラズ其要件ハ市制第五十五條第五十八條第六

十條第六十一條町村制第五十三條第五十六條第六十四條第六十五條ニ在リ其他ノ制限ハ刑法等他ノ法律ニ存ス
 其他市町村吏員組織ノ大要ハ法律中ニ定ムルモノアリト雖モ各地方情況ヲ異ニスルヲ以テ市町村ノ自主權ニ廣濶ナル
 餘地ヲ與フルコトヲ得可ク又之ヲ與フルヲ要スルナリ
 本制ニ定ムル市町村吏員ハ左ノ如シ

一 町村長

町村長ハ町村ノ統轄者ナリ即町村ノ名ヲ以テ委任ノ強制權ヲ執行スル者トス其強制權ノ幾部分ハ既ニ町村制中ニ制定
 セリト雖モ(例ヘハ町村制第百二條ノ類)多クハ別法ヲ以テ之ヲ設ケサル可カラズ其他町村長ハ町村ノ事務ヲ管理スル
 ノ任アリ故ニ一方ニ在テハ町村ニ對シテ其執行ノ責任ヲ帶ヒ一方ニ在テハ法律ノ範圍内並官廳ヨリ其權限内ニテ發シ
 タル命令ノ範圍内ニ於テ百般ノ事項ニ涉リ町村ノ幸福ヲ增進シ安寧ヲ保護スルヲ務メトス而シテ町村長ニ於テ町村會
 ノ議決ニ遵依ス可キ程度ハ町村制第三十三條以下ニ詳ナリ同條記載ノ事件ニ就テハ町村長ハ議會ノ議決ニ依ラスシテ
 之ヲ施行スルコト能ハサル而已ナラス猶其議事ヲ準備シ議決ヲ執行スルノ義務アリ故ニ町村會ニ於テ法律ニ背反スル
 コトナク其權限内ニテ議決シタル事項ハ假令町村ノ爲メニ不便アリト認ムルモ町村長ハ之ヲ執行セサルヲ得ズ唯町村
 長其議決ニ對シテ大ニ意見ヲ異ニシ公衆ノ利益ヲ害スルト認ムルトキハ町村制第六十八條第二項第一ニ從テ議決ノ執行
 ヲ停止スルノ權ヲ有ス即之ヲ停止シテ郡參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得可シ其法律命令ニ背キ又ハ權限ヲ越ユルモノモ
 亦之ニ同シ尤僅ニ利害ノ見込ヲ異ニシタルノミニテハ未タ以テ之ヲ停止スルノ理由ト爲スニ足ラス必公益ヲ損害スト
 認ムルニ限ル可シ蓋公益ノ爲メニ町村長ヲシテ此停止權ヲ有セシムルハ或ハ之ヲ濫用スルノ恐ナキニ非スト雖モ今日
 町村治ノ未タ整備セサルヨリ考フルトキハ姑ク此例ヲ存スルノ已ムヲ得サルモノアリ又監督官廳ヨリ町村長ニ停止ヲ
 命スルハ國ノ利害ニ關シ已ムヲ得サルモノニシテ監督官廳モ亦常ニ町村會議決ノ報告ヲ徵シテ其注意ヲ怠ラサル可シ
 其停止權ヲ濫用スルノ弊ハ參事會ノ參與アルヲ以テ自ラ之ヲ防制スルコトヲ得可シ其行政裁判所へ出訴スルノ權ヲ法
 律勅令ニ背反シ及權限ヲ踰越スルノ場合ニ限リタルハ行政裁判所ノ專ラ法律上ノ爭論ヲ判決ス可キモノニシテ公益ニ

關スル事ハ一ニ利害ノ争ニ過キサレハナリ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴シ若クハ内務大臣ニ訴願スルヲ得可キコト町村制第百十九條及第百二十條ノ規定ニ依テ明ナリ

其他町村長ノ町村事務ハ町村制第六十八條第二項第九ニ列載シタル條件ニ依テ明ナリ其各條件ニ關シテハ茲ニ説明ヲ要セサル可シ町村會ノ定額豫算ニ關スル職權ニ依テ町村長ノ權限ヲ加フル所以ハ第四章ニ於テ之ヲ説明ス可シ又町村會ノ議決町村制第百二十五條以下ニ從ヒ官ノ許可ヲ受ク可キモノハ之ヲ受クルノ前ニ施行スルヲ得サルコト固ヨリ言フ俟タス且時宜ニ依リテハ監督官廳ノ懲戒權ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可シ

町村制第六十九條ニ列記シタル事務ニ關シテハ町村長ハ至ク前述ノ場合ト異ナリタル地位ヲ有スルモノトス已ニ前章ニ記述シタル如ク國ハ町村ヲシテ國政ニ關スル事務ニ參與セシムルコトアル可シ之ヲ參與セシムルノ法ニアリ國政ニ關スル事務ヲ以テ町村ニ委任シ其自治權ヲ以テ之ヲ處辨セシムルモノアリ又其事務ヲ町村ニ委任セシメテ直接ニ町村長其他町村ノ吏員ヲ指定シテ之ヲ委任スルモノアリ此區別ノ緊要ナル點ハ第一ノ例ニ據レハ斯ル事件ノ議決モ亦町村會ノ職權ニ歸シ町村長若クハ當該吏員ハ此事件ニ關シ町村會ニ對シテ責任ヲ帶ヒ且當ニ其監視ヲ受クルモノトシ第二ノ例ニ據レハ町村長ハ直接ニ官命ニ依テ事務ニ從事シ町村會ト相關セズ此事務ニ關スル指揮命令ハ直ニ所屬官廳ヨリ之ヲ受ケ特ニ其官廳ニ對シテ責任ヲ帶フルモノトス元來甲乙二例ヲ比較スルトキハ互ニ得失アリト雖モ今日ノ情況ニ照シ事務ノ舉行ヲ期スルニ付テハ乙法ヲ行フニ如カス故ニ本制ハ乙法ヲ採リテ之ヲ第六十九條ニ明言セリ但細則ニ涉ルモノハ別法ニ設ラントス且此乙法ヲ行フニ至テハ其委任ノ職務ニ付キ生スル所ノ費用ハ何レノ負擔ナルカヲ明言セサルヲ得ス依テ同條末項ニ之ヲ掲ク其他町村固有ノ事務ニ要スル費用ハ町村ノ自ラ負擔ス可キコト言フ俟タスシテ明ナリ

二 町村助役

助役ハ各町村ニ一名ヲ置クヲ通例トス然レトモ各地方ノ需要ニ應ジテ或ハ之ヲ增加ス可キコトアリ之ヲ町村條例ノ定

ムル所ニ任セリ(町村制第五十二條)助役ノ町村長ニ屬スルハ共ニ集體ヲ爲スニアラス町村役場ノ事務ハ皆町村長ノ專決ニ在リ其責任モ亦町村長一人ニ屬ス故ニ助役ハ其補助員ニシテ一ニ町村長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ輔佐スルモノトス唯町村長故障アリテ之ヲ代理スル場合及委任ヲ受ケテ事務ヲ專任スル場合ニ限リ自ラ其責任ヲ負フモノトス但事務ヲ委任スルニハ町村會ノ同意ヲ得ルヲ要シ町村制第七十條其町村長ニ委任ノ事務ニ係ルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス(町村制第六十九條)

三 市參事會

市ニ於テハ市長及助役ヲ置クコト町村ノ制ニ同クシテ別ニ名譽職參事會員若干名ヲ置キ合セテ集體ヲ組織シ之ヲ市參事會トス是町村ノ制ト異ナル所ナリ助役及名譽職參事會員ノ定員ハ市制第四十九條ニ之ヲ定ムト雖モ市ノ情況ニ依リ増減ヲ要スルトキハ市條例ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得可シ(市制第四十九條)市長ハ一箇ノ決議權ヲ有シ員數相半スル時ハ專決スルコトヲ得此集議會ノ職務ハ至ク町村長ノ職務ト其例ヲ同クス(市制第六十四條)其詳細ノ説明ハ茲ニ要セサル可シ其職務規程ハ本制ニ於テ多ク設クルヲ要セス(市制自第六十五條至第六十八條)其細目ニ至テハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアル可シ

市長ハ市ノ固有ノ事務ヲ處理スルト委任ノ事務ヲ處理スルト各別段ノ地位ヲ占ムルモノトス即チ市ノ固有ノ事務ニ就テハ參事會ノ議事ヲ統理シ之ヲ準備シ議決ヲ執行シ時ニ臨テハ議決ヲ執行ヲ停止シ(市制第六十五條)外部ニ對シテ市ヲ代表スルモノニシテ唯急施ヲ要スル場合ニ限リ議決ヲ俟タスシテ專行スルコトヲ得可シ(市制第六十八條)然レモ市制第七十四條ニ列載スル委任ノ事務ニ就テハ參事會ノ參與ヲ受ケスシテ專行スルモノトス此區別アルハ即前述ノ乙法ヲ取リ之ヲ市ニ委任セシメテ特ニ市長ニ委任シタルニ依ル

市助役及其他ノ參事會員ハ會中ニ在テハ市長ト同一ノ職權ヲ有スト雖モ職事外ニ在テハ町村助役ノ町村長ニ於ケルト同ク市長ニ對シテ補助員ノ地位ニ在ルモノトス(市制第六十九條第七十四條第二項)殊ニ都府ノ地ニ於テハ分業ノ必要ナル可キヲ以テ事務ヲ分テ參事會員ニ專任セシムルコト最緊要ナリトス此需要ニ應センカ爲メ本制ハ之ヲ市條例ノ適

宜定ムル所ニ設リ(市制第六十九條第三項)以テ各地方ノ便ニ從ハントス

四 委員

委員ヲ設クルハ市町村人民ヲシテ自治ノ制ニ習熟セシメンカ爲メニ最效益アリ委員アルトキハ多數ノ公民ヲシテ市町村ノ公益ノ爲メニカヲ竭スコトヲ得セシメ自治ノ效用ヲ擧クルコトヲ得可シ何トナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナラス委員ノ列ニ入りテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積ミ能ク施政ノ難易ヲ了知スルコトヲ得可シ又地方ノ事情ヲ表白スルノ機會ヲ得テ大ニ專務吏員ノ短處ヲ補フコトヲ得可シ蓋シ委員ハ自治ノ制ニ於テ緊要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ本制施行ノ際委員ノ設ケテ促シテ市町村公民ヲシテ之ニ參與セシメンコトヲ務ム可シ委員ノ應置ハ固ヨリ市會町村會ノ決議ニ在リ其組織及職務ハ市町村條例ノ定ムル所ニ在リト雖モ町村長及市參事會ハ正務ノ行政機關ニシテ委員ハ其一部分ニ參與スルニ過キサレハ委員ハ町村長若クハ市參事會ニ從屬シ概テ市長若クハ町村長ヲ以テ委員長ト爲シ參事會員ヲ以テ多ク之ニ加ヘ市會町村會議員モ亦成ル可ク此委員ニ列セシメンコトヲ要ス市會町村會ノ議員ニシテ行政ノ事務ニ加ハルトキハ能ク施政ノ緩急利害ヲ辨識シ行政吏員ト互ニ協同シテ事務ヲ擔任スルノ慣習ヲ生シ自ラ代議機關ト行政機關トノ軌轢ヲ防制スルコトヲ得可シ

五 區長

區域廣闊又ハ人口稠密ノ地ハ施政ノ便ヲ計ランカ爲メ之ヲ數區ニ分ツノ必要アル可シ故ニ本制ハ市町村ニ區ヲ制設スルコトヲ許シ之ニ區長及代理者ナル行政ノ機關ヲ設置セリ此機關ハ其市町村ノ行政廳ニ隸屬スルモノニシテ其指揮命令ヲ奉シテ事務ヲ區内ニ執行スルモノトス其委任事務ノ範圍ハ土地ノ情況ト市町村行政廳ノ酌量ニ在ルモノニシテ豫メ之ヲ定メスト雖モ區長ハ名譽職ニシテ別ニ區ノ附屬員ナル者アルニアラサレハ(三府ヲ除クノ外)實際此事情ヲ斟酌セサル可カラズ要スルニ區ハ市町村内別ニ特立シタル一ノ自治體タルニ非ス區長モ亦其固有ノ職權アルニ非スシテ單ニ町村長市參事會ノ事務ヲ補助執行スルノ便ニ供フルニ過キス故ニ區長ハ市町村ノ機關ニシテ區ノ機關ニ非ス區ハ法人ノ權利ヲ有セス財産ヲ所有セス概計豫算ヲ設ケス又議會若クハ其他ノ機關ヲ存スルコトナシ蓋シ區ヲ設ケルトキハ施

政ノ周到ナルヲ得可ク(一)市町村内ノ各部ニ於テ利害ノ軌轢スルヲ調和シ、(二)市町村費賦課ノ不平等ヲ矯メ又能ク行政ノ勞費ヲ節略スルヲ得可シ要スルニ區長ヲ設ケルハ更ニ自治ノ良元素ヲ市町村制中ニ加フルモノニシテ舊制ノ伍長組長等ノ例ヲ襲用セルナリ但從前ノ區内ニ存スル戶長ノ類ト混ス可カラズ又區ニシテ從來固有ノ財産アル時ノ例ハ第五章ノ說明ニ詳述ス可シ

六 其他ノ市町村吏員

以上市町村吏員ノ外收入役アリ(市制第五十八條)町村制第六十二條)其職掌ハ市町村有財産ト連帶シテ説明ス可シ又書記其他技術上ニ要スル吏員アリ又使丁ナル者アリ機械的ニ使用スル者トス此等ノ吏員ヲ置キ相當ノ給料ヲ與フルハ市町村ノ義務トス(市制第五十六條)町村制第六十三條)

町村ニ於テハ書記其他ノ吏員ヲ置キ俸給ヲ支出スルノ義務アリト雖モ本制ハ小町村ノ爲メ一ノ便法ヲ設ケ町村長ニ一定ノ書記料ヲ給シテ其便宜ニ從ヒ書記ノ事務ヲ保擔スルヲ許サントス此便法ヲ設ケ及其書記料ノ額ヲ定ムルハ町村會ノ職權ニ在ル可キモノトス(町村制第六十三條第一項)若シ町村長ニ於テ其金額ニ不足アリト爲ストキハ町村制第七十八條ニ依リ之ヲ參事會ニ申出ツルコトヲ得可シ其他ノ細目ハ今之ヲ制定セス蓋シ書記料ヲ給與スルトキハ町村長ニ於テハ自ラ其事務費ヲ節約スルヲ得可シ監督官廳モ亦能ク是ニ注意シ公務上支障ナキ限リハ町村ニ設示シテ繁雜ヲ省キ冗費ヲ減センコトヲ務メサル可カラズ要スルニ本制ハ分權ノ主義ニ依リ名譽職ヲ設ケ從テ從來ノ町村費ヲ節減センコトヲ期スト雖モ若シ市町村ニ於テ度外ノ節約ヲ行ヒ依テ公益ヲ害スルニ至ラントスルトキハ監督官廳ニ於テハ則チ之ニ干渉スルノ道アリ

市ハ勿論其他大ナル町村ニ於テハ文化ノ進ムニ從ヒ高等ノ技術員(法律顧問、土木工師、建築技師、衛生技師等ノ類)ヲ使用ス可キ必要ヲ生スルニ至ル可シ之ヲ使用スルニハ或ハ通常雇入ノ契約ヲ以テシ或ハ市町村吏員ト爲スコトアル可シ又時宜ニ依リ之ヲ有給ノ助役トシテ任用スルノ便アリ本制ハ此件ニ關シテハ全ク市町村ノ自由ニ任セントス尤警察學事等ノ爲メニ特別ノ人員ヲ置クニ付テハ別段ノ法規ヲ要ス可シト雖モ皆是別法ヲ以テ定ム可キモノナリ

第三編 第二章 郡區市町村

市町村ノ公務ニ任スル者ハ名譽職ト專務職トノ二種ニ分ツト雖モ本制ニ於テ主トシテ名譽職ヲ擴張シタル理由ハ上ニ之ヲ論述シタルカ如シ又本制ニ於テ名譽職ト爲スコトヲ規定シタル場合ニ於テハ市町村ハ必之ニ選任ス可シ決シテ有給職ト爲スヲ得ス然レトモ小町村ニ於テ名譽職ニ屬スルモノト雖モ大市町村ニ在テハ專務吏員ヲ置クヲ要スルコトアリ專務職トハ特別ノ技術若クハ學問上ノ養成ヲ要スル職務並事務繁多ニシテ本業ノ餘暇ヲ以テ無給ニテ負擔セシムルコト能ハサル職務ナリ此ノ如キ職務ハ有給吏員ト爲スヲ常例ト爲セリ此條理ノ範圍内ニ於テ市町村ハ自己ノ便宜ニ依リ有給吏員若クハ無給吏員ヲ置ク可キモノトス

今本制ニ於テハ市長市助役市町村收入役及市町村附屬員使丁ハ皆專務吏員ト爲スコキ者トス町村長町村助役ハ名譽職ト爲スヲ原則トスト雖モ町村ノ情況ニ依テ之ヲ有給ノ專務職ト爲スヲ得セシム(町村制第五十五條第五十六條)市參事會員(市長助役ヲ除ク)委員區長ハ名譽職トス但三府ノ區長ハ有給吏員ト爲スコトアル可シ

專務吏員及名譽職吏員ハ共ニ市町村吏員ナリ本制ニ於テ其區別ヲ爲サ、ルモノハ總テ此兩種ニ適用スルモノトス又市町村吏員タル者ハ其何レノ種類ニ屬スルニ拘ラス法律ニ準據シテ所屬ノ官廳及市町村廳ニ對シテ從順ナル可ク均シク懲戒法ニ服從ス可シ其懲戒ヲ行フハ町村長及市參事會(町村制第六十八條第二項第五、市制第六十四條第二項第五)及監督官廳(郡長府縣知事)ノ任トス(町村制第二百二十八條、市制第二百二十四條)懲戒ノ罰トシテ本制ハ左ノ三種ヲ設ク

- 一 誹責
- 二 過怠金
- 三 解職

誹責又ハ過怠金ニ處スルハ當該吏員ノ專決ニ屬シ其處分ニ對スル訴願モ均ク當該吏員ノ裁決ニ任シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシム是專ラ懲戒權ノ執行ヲ嚴肅ナラシムル所以ナリ獨リ解職ノ處分ニ對シテハ大ニ保護ヲ加ヘサル可カラス(但隨時解職シ得可キ吏員ハ懲戒裁判ノ法ニ依ラス解職スルヲ得セシム)故ニ本制ハ解職ノ理由ヲ指定セルノミナラス(但行狀ヲ紊亂シ廉耻ヲ失フトハ公務上ニ止マラス私行ニ關スルコトモ含當スルモノナ

リ)郡參事會府縣參事會ナル集議體ノ裁決ニ任セリ(市制第二百二十四條、町村制第二百二十八條)

專務吏員及名譽職吏員トモ職務上大率子同一ノ權利義務ヲ有スト雖モ深ク其性質ニ就テ考フルトキハ互ニ相異ナル所アリ專務職ヲ辭スルハ吏員ノ隨意ニ在リト雖モ名譽職ハ公民ノ義務トシテ之ニ應セサルヲ得ヌ其已ニ擔當シタル職務ヲ繼續スルヲ義務アルト否トニ付テモ亦此差別アリ(市制第八條第五十五條第三項、町村制第八條第五十七條)又市制第五十六條第五十八條及町村制第五十八條第六十二條ノ制限ノ如キハ專務吏員ニ非サレハ負擔セシムルコトヲ得ス其市町村ノ公民タル者ニ限ラサルハ徒ニ選擇ノ區域ヲ縮小セサランカ爲メナリト雖モ高等ノ有給吏員ニハ其職ニ就クト同時ニ其市町村ノ公民權ヲ付與スルコト當然ナリ(市制第五十三條第五十八條、町村制第五十六條第二項第六十二條)專務吏員ハ一身ノ全力ヲ舉ケテ市町村ノ爲メニ盡スコキヲ以テ相當ノ給料ヲ受クルハ元ヨリ至當ナリト雖モ名譽ノ爲メニ就職スル公民ニハ給料ヲ給セス(市制第七十五條无市町村ノ公務ノ爲メニ要スル實費ハ之ヲ辨償セサルヲ得ヌ唯其名譽職ノ事務頗ル繁忙ニシテ本業ヲ妨ケラル、トキハ多少ノ報酬ヲ與フルハ當然ナリ其額ハ固ヨリ勤勞ニ相當セサル可カラス此規則ハ町村長(町村制第五十五條第二項)ハ勿論町村助役及名譽職市參事會員ニシテ市町村事務ヲ分任スル者(市制第六十九條第二項、町村制第五十五條第二項)ノ爲メニ之ヲ設ク其報酬額ハ市町村會之ヲ議定シ(市制町村制第七十五條)其額ニ關スル爭論ハ市制町村制第七十八條ニ依テ處分シ司法裁判ヲ求ムルヲ許サス

有給市町村吏員ノ財産上ノ要求ハ上ニ記載シタル理由アルニ依リ其職重ケレハ從テ其給料ニ關シテ官廳ノ干渉ヲ要スルコト多シトス尤給料額ハ元來市町村ノ自ラ定ムル所ニ任シ條例ヲ設ケテ之ヲ一定シ又ハ選任ノ前ニ方テ議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム可シ然レトモ監督官廳ハ斯ク市町村ノ定ムル給料ヲ以テ多キニ過キ又ハ不足アリト爲ストキハ認可ヲ拒ミ所屬ノ參事會ヲシテ之ヲ斷定セシムルノ權利アリ

有給市町村吏員ニハ退職料ヲ給スルヲ當然トス然レモ市町村吏員ニ對シテ官吏ノ恩給令ヲ適用スルコトヲ得ヌ是其地位ノ異ナルノミナラス市町村吏員ハ定期ヲ以テ選任セラレ任期滿限ノ後ハ再選若クハ再任ヲ受クルニ非レハ其職ニ在

ラサルヲ以テナリ若シ其吏員任期満限後再選若クハ再任セラレサルトキハ選三糊口ノ道ヲ失フニ至ル可シ故ニ此結果ヲ防クニ非サレハ一方ニ在テハ有力ノ人進テ市町村ノ職ニ就クコトヲ屑シトヒサル可ク一方ニ在テハ再選ニ依テ生計ヲ求ムルカ如キ輩ヲシテ常ニ市町村會ノ息ヲ窺ヒ以テ公益ヲ忘レシムルコトナシトセズ加フルニ市町村ノ職務ハ昇等増給ノ途少キヲ以テ其退隱料ヲ給スルハ官吏ヨリ厚クスルヲ至當トス然レモ且下一定ノ法律ヲ以テ之ヲ定メンヨリハ寧ロ市町村ノ條例ヲ以テ之ヲ設定セシムルノ便ナルニ若カサルナリ

有給ト無給トヲ論セス凡市町村吏員ノ職務上ノ收入ハ市町村ノ負擔タルコト疑ヲ容レズト雖モ之カ明文ヲ掲グルモ亦無用ニアラサル可シ(市制町村制第八十條)

市町村ト吏員トノ間ニ起ル給料及退隱料ノ爭論ハ司法裁判ニ付セス市制町村制第七十八條ニ依テ處分ス可キナリ其保誼ハ此方法ヲ以テ足レトス

結局ニ至テ猶注意ス可キコトアリ抑退隱料ノ規則ヲ設クルトキハ市町村ノ負擔ヲ加重スルノ恐アリト雖モ他國ノ實驗ニ據レハ決シテ多額ノ負擔ヲ爲スモノニアラス市町村ニ於テハ多クハ適任ノ吏員ヲ再選シ吏員モ亦再選ヲ受ケサルトキハ必他ノ地位ヲ求メサル者アラサル可シ故ニ實際退隱料ヲ支出スルノ場合ハ甚少カル可キナリ又一方ヨリ論スルトキハ市町村ノ盛衰ハ有爲ノ人材ヲ得ルノ多少ニ關シ有爲ノ人材ヲ得ルトハ其生計ヲ安全ナラシムルト石トニ關スルモノニシテ市町村自治ノ權ヲ得ルニ於テハ退隱料負擔ノ如キハ之ヲ重シト置テ可カラス況ヤ有給ノ町村長助役ヲ設ケサル町村ニ於テハ此負擔ヲ受クルノ場合少キニ於テヤ又況ヤ名譽職ヲ設クルニ於テハ行政ノ費用大ニ減少ス可キニ於テヤ蓋市町村ノ繁榮ハ斯ノ如キ法アリテ始メテ將來二期望ス可キナリ

市制町村制第四章 市町村有財產ノ管理

市町村ニ於テ自ラ其事業ヲ執行スルニ付テハ必之ニ要スル所ノ資金ナカル可ラス故ニ各市町村固有ノ經濟ヲ立テ以テ必要ノ費用ヲ支辨スルノ道ヲ設ク可シ即市町村ハ財產權ヲ有スルコト概テ一個人ト同一ナリ然レトモ細ニ觀察スルトキハ其一個人又ハ私立組合ノ類ト相異ナルモノハ市町村ノ事業及支出ノ大半ハ法律規則ニ依テ定マリ市町村民ニ對

シテ其義務トシテ負擔セシムルコトヲ得ルノ一點ニ在リ蓋市町村ノ經濟ハ之ヲ汎論スルトキハ一個人ト同一ノ權利ヲ有スルモノニシテ市町村ハ自ラ其經濟ヲ管理スルノ專權アリト謂フ可シ而シテ之ニ二樣ノ制限アリ第一市町村ノ資力ハ大ニ國家ノ消長ニ關係アルヲ以テ政府ハ須ク此點ニ注意セサル可カラス第二政府ハ市町村ノ經濟ヲ以テ國ノ財政ニ抵觸セザラシメ之ガ爲メニ國ノ財產ヲ濶濶セザランコトヲ務メサル可カラス故ニ市町村ノ財政ヲ以テ立法ノ範圍ニ入レ立法權ヲ以テ市町村ノ財政ニ關スル法規ヲ設ケテ之ヲ格違セシム可キ而已ナラズ其經濟上ノ處分荷モ國ノ利害ニ關涉スルモノハ皆政府ノ許可ヲ得セシメントス

以上ノ論點ニ關スル規定ハ市制第四章及第六章並町村制第四章及第七章ニ載ス抑市町村ノ經濟ニ對シ政府ノ干渉スル所ノ程度ハ自治制度ヲ論スル者ノ視ル所ニ依テ各異ナル所アル可シト雖モ要スルニ市町村ノ行政ニ對シ官廳ノ監視ヲ重シテ之ヲ拘束スルニ過グルトキハ其弊ヤ遂ニ市町村ノ便宜ヲ妨ケ其自ラ進テ幸福ヲ求ムルノ道ヲ阻碍スルヲ免レサラントス然レトモ一方ヨリ見ルトキハ自ラ從來ノ慣行アリテ遷ニ之ヲ變シ難キモノアリ故ニ漸ヲ以テ市町村ノ自主ヲ擴張スルヲ是ナリトス此點ニ於テハ本制ハ最慎重ヲ加ヘ今日ノ情勢ニ照シテ適度ヲ得タリトスル所ヲ以テ制定セリ

市町村ノ法人タルハ已ニ法律ヲ認ムル所ナレハ市町村ノ財產ヲ所有スルノ權利ヲ有ス可キコト固ヨリ疑ヲ容レズ而シテ市町村財產ニ二種ノ別アリ(甲)市町村ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ消費スルモノアリ例ヘハ土地家屋等ノ賃借料營業ノ所得、市町村稅及手收料等ノ如キ是レナリ又基本財產ト稱スルモノアリ基本財產ハ其入額ヲ使用スルニ止マリ其原物ヲ消耗セサルモノトス蓋此區別ヲ立ツルハ市町村ノ資力ヲ維持スルカ爲メニ極メテ緊要ナルモノニシテ國家ハ特ニ市町村ノ基本財產ヲ保護シテ其濫費ヲ防カサル可カラス且經常歲入ノ外ニ臨時ノ收入例ヘハ寄附金穀ノ如キハ成ル可ク經常歲費ニ充テシメサルヲ要ス唯寄附者ニ於テ寄附金支出ノ目的ヲ定メタルカ或ハ非常ノ水害若クハ凶荒等ノ爲メ經常ノ收入ヲ以テ其費途ニ充ツルニ足ラサルカ如キノ場合ハ固ヨリ別段ナリト雖モ是亦上司ノ許可ヲ受クルヲ要スト爲スハ其經濟上ノ處分ヲ重スル所以ナリ(市制第八十一條第百二十三條第二項)町村制第八十一條第百二十七條第二(七)凡市町村ノ財產ハ市町村一般ノ爲メニ使用スルコト固ヨリ言ヲ俟タス故ニ特ニ之ヲ法律ニ掲載スルヲ要セスト雖モ若シ

第三類 第二章 郡區市町村